

# 「松山市子ども・子育て 支援事業計画」の 平成27年度実施状況

(地域子育て部会)

～第4章「施策の展開」部分～

平成29年5月30日

# 松山市子ども・子育て支援事業計画の基本施策と取り組み・事業 平成27年度実施状況

推進施策	通番	事業名	担当課	事業の概要及び今後の方針	【参考】平成26年度実施状況	平成27年度実施状況	
11	2-1	11	病児・病後児保育事業	保育・幼稚園課	認定こども園・幼稚園・保育所等に通っている児童が病気又は病後回復期のため、集団生活が困難な場合に、一時的に預かります。	昨年度に引き続き、市内4箇所（各施設定員4名）で病児・病後児保育を実施しました。 実施施設：石丸小児科・芳村小児科・天山病院・生協病院 延べ利用人数：4,289人	(進捗管理表作成)
12	2-1	12	地域子育て支援拠点事業	保育・幼稚園課 子育て支援課 子ども総合相談センター事務所	乳幼児及びその保護者が相互の交流を行う場所を開設し、子育てについての相談、情報の提供、助言その他の援助を行います。これにより、地域の子育て支援機能の充実、子育ての不安感の緩和等を図り、子どもの健やかな育ちを支援します。	(地域子育て支援センター) 地域の子育て家庭を対象に、親子ふれあい広場や赤ちゃん広場、絵本の貸出しなどを行うと共に、育児や保育に関する相談や情報の提供を行いました。 なお、27年度から「子ども・子育て支援新制度」が施行することに伴い、市の事業計画策定に係るニーズ調査結果に基づいた実施施設の検討を行うため、26年度の新規開設は見送りました。 年間参加組数(親子ふれあい広場、育児講座、園庭開放等を含む)：42,279組 (児童館型) 毎週火～金曜日の午前9時半から12時半まで、各児童館・児童センターで「親子ふれあいタイム」を開催しました。 子育て中の保護者同士が交流する場所の提供や子育て相談、遊びを通したふれあい活動などを行いました。 (ひろば型) 市営1箇所、民営4箇所(運営補助)の合計5箇所で開催しました。 いつでも気軽に足を運んで、子育て仲間と交流したり、スタッフに相談したりできる場所を提供しました。 子育てをしている人同士が交流することで、育児の悩みや不安の解消につなげることを目的としています。 利用状況 松山東雲女子大学内しのめ広場「たんぼぼ」【延利用者数】7,822人(-269人) 聖カタリナ大学内カタリナ子育て支援ひろば「ほけっと」【延利用者数】5,278人(-106人) 子育てネットワークえひめ 子育てひろば「くーふあん」【延利用者数】9,730人(+457人) 子育てネットワークえひめ 子育てひろば「くりっぶ」【延利用者数】8,237人(+3,538人) 市営「ほっとHOTひろば」【延利用者数】6,762人(-167人) 合計延利用者数 37,829人(+3,453人)	(進捗管理表作成)
13	2-1	13	児童クラブ運営事業(放課後児童健全育成事業)	子育て支援課	就労等により保護者が昼間家庭にいない小学校の児童を対象に、適切な遊び及び生活の場を提供します。入会児童の増加に対応するため、計画的に専用施設の新築や増改築などの整備を行い、量と質の向上に取り組めます。また、国の「放課後子ども総合プラン」に沿って、放課後子ども教室と放課後児童クラブの関係者が情報共有を図るなど連携して放課後子ども対策に取り組めます。	児童クラブの施設整備に当たっては、子ども・子育て支援新制度による小学3年生から6年生までの対象学年拡大に対応すべく、平成26年度は20校区の施設整備を行いました。これにより、平成27年度は、クラブ数が83カ所となるとともに、小学6年生までの受入を25校区で実施できるよう体制づくりを行い、子育て環境基盤整備の充実を図りました。 また、国の省令(平成26年4月30日公布)による新たな基準に基づき、児童1人当たり1.65㎡の面積要件を確保するとともに、静養スペースを設置することで、子どもがより過ごしやすい環境づくりに取り組みました。 ○平成26年5月1日時点での入会児童数 3,536人(+164人。待機児童なし)	(進捗管理表作成)
14	2-1	14	子育て短期支援事業	子育て支援課	保護者の病気、疲労等により家庭で養育することが一般的に困難になった児童を保護します。また、夫等の暴力から一時的に逃れるためや経済的な理由により緊急一時的に保護が必要になった母子の保護を行います。今後も広報紙等によって周知に努め、利用を促進します。	(ショートステイ) 平成25年度と同様の6施設で事業を実施しました。 児童養護施設4施設(愛媛慈恵会、親和園、松山信望愛の家、三愛園) 乳児院1施設(松山乳児院) 母子生活支援施設1施設(愛媛県母子生活支援センター) ○延べ利用日数：366日 ○延べ利用世帯数：49世帯 ○延べ利用者数：67人 広報や『ひとり親家庭のしおり』に掲載し、周知に努めています。 (トワイライト) 平成25年度と同様の6施設で事業を実施しましたが、利用が少ない状況であるため、事業の周知と利用者の拡充に努めます。 児童養護施設4施設(愛媛慈恵会、親和園、松山信望愛の家、三愛園) 乳児院1施設(松山乳児院) 母子生活支援施設1施設(愛媛県母子生活支援センター) ○実施延べ日数 23年度：0日 24年度：0日 25年度：0日 26年度：43日	(進捗管理表作成)
15	2-1	15	養育支援訪問事業 その他要支援児童、要保護児童等の支援に資する事業	子ども総合相談センター事務所	養育支援が必要でありながら自主的に支援を求めることができない家庭を早期に発見し、必要な訪問支援を行います。今後も継続して支援を行い、家庭での安定した児童の養育が可能となるように努めます。(要支援児童等に対する適切な対応)	養育支援が特に必要である家庭に対し、過重な負担がかかる前の段階において、保健師・保育士等がその居宅を訪問し、養育に関する指導、助言等を行うとともに、養育支援訪問事業の中で、養育者の自立を支援するため「育児・家事援助サービス」支援者の派遣を行い、当該家庭の適切な養育の実施を確保し、虐待発生の予防に努めました。 また、要保護、要支援児童等の支援のほか、虐待のリスク要因を持つ家庭に対しても虐待の発生を予防するための支援を行いました。 若年妊婦や望まない妊娠等の特定妊婦や出産前後の周産期ハイリスクの保健所情報に対して、産科医や小児科医と連携して、育児不安の軽減を図り、心身が安定した状態で養育が行えるよう妊娠前から総合的な支援を行いました。 訪問件数で達成度を判断するのは困難なため、目標数値は設定していませんが、相談に対し、迅速かつ的確な対応に努めました。 ○家庭への育児支援の状況 調査訪問：980件 支援訪問：4,994件 電話連絡：5,011件	(進捗管理表作成)
16	2-1	16	妊婦一般健康診査事業	健康づくり推進課	妊婦一般健康診査(一部公費負担)を行い、妊婦及び胎児の健康の保持増進を図ります。広報紙やホームページへの掲載、チラシの配布等で受診勧奨のために周知・啓発を図ります。	(実施方法) 母子健康手帳交付時に受診票を交付し医療機関に委託して個別健康診査を実施しました。 (事業内容及び回数) 平成21年4月1日から妊婦一般健康診査の公費負担回数を、従来の5回に9回を追加、計14回に増やし、国の基準に準じて、引き続き、全妊婦対象に助成を実施しました。 (延受診者数) 健診項目が定められているA券5回分 21,329人 医師が必要と認めた際に使用できるB券9回分31,075人	(進捗管理表作成)

推進施策	通番	事業名	担当課	事業の概要及び今後の方針	【参考】平成26年度実施状況	平成27年度実施状況	
17	2-1	17	乳児家庭全戸訪問事業（こんには赤ちゃん訪問）	健康づくり推進課	生後4か月未満の乳児のいる家庭を保健師又は訪問員（母子保健推進員等）が訪問し、さまざまな不安や悩みを聞き、子育て支援に関する必要な情報提供を行います。支援が必要な家庭には適切なサービスの提供を行うことで、地域の中で子どもが健やかに育てられる環境整備を図ります。	生後4か月までの乳児のいる家庭に対し、地区担当保健師や専門の研修を受けた90名の訪問員が訪問し、子育てに関する必要な情報提供を行うとともに、育児相談等を行いました。 ※訪問員とは、当該訪問業務を委託している松山市母子保健推進協議会所属の母子保健推進員です。  （訪問者） 地区担当保健師、訪問員（母子保健推進員） （訪問件数） 4,107件  ※H22年度から、子育て支援課が対応する（養育支援訪問事業）ケースは、こんには赤ちゃん訪問事業の対象からは除いています。	（進捗管理表作成）
18	2-1	18	ファミリー・サポート・センター事業（育児）	子育て支援課	子育てに関し、「援助を受けたい方（依頼会員）」と「援助を行いたい方（提供会員）」両者のあつ旋等を行います。利用料の助成により依頼会員の増加を図るとともに、依頼会員数と提供会員数のバランスを保ちます。また、より安全な援助活動を行うための講習会を実施し、提供会員の知識及び技能の向上を図ります。	保育園、児童クラブ等の施設では対応が難しい突発的、一時的な保育ニーズや、高齢者に対する簡易な介護等に対応して、「援助を受けたい者（依頼会員）」と「援助を行いたい者（提供会員）」をセンターに会員として登録し、援助が必要となった場合に両者の斡旋等を行いました。 平成21年4月から、えひめ緊急サポートネットワークの廃止を受け、新たに病児・病後児預かり、宿泊援助を実施するなど、援助内容を拡充しています。 【平成26年度実施状況】 （育児）会員2,304人（依頼会員1,520人 提供会員752人 両方会員32人） 活動件数 8,334件  ○活動内容（主なもの） 1 児童クラブの送迎。その後の預かり 約 41% 2 保育園・幼稚園の送迎。その後の預かり 約 20% 3 習い事の送迎 約 11%	（進捗管理表作成）
21	2-1	21	子育て支援総合コーディネート事業	子ども総合相談センター事務所	多様な子育て支援サービスに関する情報を一元的に把握し、関係機関と連携をもちながら、情報提供、サービス利用の利便性向上及び円滑化等を図ります。また、保健師、保育士等の職員及び、関係機関を対象に、より専門性を高め、関係機関との連携を強化するため、研修会等を開催し、スキル向上を図ります。	要保護児童等の家庭に対して、関係機関と連携しながら、ケースマネジメントや必要な情報提供を行うなど、継続的な支援に努めました。 また、連絡調整会やコーディネート研修会を開催し、子育て支援に関する知識・能力や相談援助の技術を有する保育士、保健師等の専門職（コーディネート）の専門性を高め、関係機関との連携に努めました。  ○関係機関（学校・保育所・幼稚園・医療機関・児童相談所等）と連携した件数：6,007件 ○個別ケース検討会議：123回 ○コーディネート研修会 開催回数：4回、参加機関数：217機関、参加延人数：417人	要保護児童等の家庭に対して、関係機関と連携しながら、ケースマネジメントや必要な情報提供を行うなど、継続的な支援に努めました。 また、連絡調整会やコーディネート研修会を開催し、子育て支援に関する知識・能力や相談援助の技術を有する保育士、保健師等の専門職（コーディネート）の専門性を高め、関係機関との連携に努めました。  ○関係機関（学校・保育園・幼稚園・病院・児童相談所等）と連携した件数：6,418件 ○コーディネート研修会 開催回数：4 参加機関数：169機関 参加延人数：425人
22	2-1	22	子ども総合相談	子ども総合相談センター事務所 教育支援センター事務所	教育・福祉両部門の子どもに関する相談支援機能を集約し、「松山市子ども総合相談」を設置しています。子どもに関するさまざまな問題や悩みを1箇所ですべて相談することができます。今後も相談体制の充実や職員のスキル向上を図ります。	子育て、虐待、いじめ、不登校、問題行動などの0歳から18歳までの子どもに関するさまざまな相談窓口として、関係部局・関係機関と密に連携して迅速かつ的確な対応に取り組みました。  平成26年度相談状況（総合相談窓口の対応件数） 松山市子ども総合相談：2,305件 いじめほっとらいん：107件 合計：2,412件	子育て、虐待、不登校、いじめ、問題行動など0歳から18歳までの子どもに関する様々な総合相談窓口として「松山市子ども総合相談」を設置し、関係機関と連携して迅速かつ的確な初期対応に取り組みました。 また、いじめ相談として専用電話とメールによる「いじめほっとらいん」を設置し、いじめに関する相談に対し学校や教育委員会と連携し、迅速かつ的確な対応に努めました。  ○平成27年度「松山市子ども総合相談」対応延件数 電話：1,687件 来所：651件 訪問：122件 メール：4件 合計：2,464件  ○平成27年度「いじめほっとらいん」対応延件数 電話：93件 メール：32件 来所：6件 訪問：4件 はがき：19件 合計：154件
23	2-1	23	子育て支援サービス利用料の助成	子育て支援課	ファミリー・サポート・センターやシルバー人材センターが実施する保育や送迎などの子育て支援サービス利用料を助成します。また、ひとり親家庭（児童扶養手当受給者）を対象に助成額を増額します。	（後期まつやま子育てゆめプランに記載なし）	まつやまファミリー・サポート・センターやシルバー人材センターが実施する保育や送迎などの子育て支援サービス利用料の助成を行いました。また、ひとり親家庭（児童扶養手当受給者）に対しては、助成額を増額しました。 【平成27年度実施状況】 ○ファミリー・サポート・センター 助成対象件数：7,718件 助成額：1,814,200円 （うち児童扶養手当受給者 助成対象件数：1,125件 助成額：348,450円） ○シルバー人材センター 助成対象件数：1,528件 助成額：446,318円 （うち児童扶養手当受給者 助成対象件数：3件 助成額：5,555円）
24	2-1	24	子育て情報の周知	子育て支援課	子育て情報を冊子、ウェブサイト、メール等さまざまな方法で周知します。民間事業者とも連携・協力して行政だけでは届けにくい場所にも情報を届けるよう努めます。	まつやま子育て応援ブック『まつトコ』を配布するとともに、松山市子育て情報サイト『カンガ(エ)ルーカフェ』を開設し、子育てに役立つ情報を提供しています。また市内の子育て関連施設を分かりやすく掲載した『子育てマップ』も配布しています。	まつやま子育て応援ブック『まつトコ』を配布するとともに、松山市子育て情報サイト『カンガ(エ)ルーカフェ』を開設し、子育てに役立つ情報を提供しています。また市内の子育て関連施設を分かりやすく掲載した『子育てマップ』も配布しています。 【27年度状況】 ・まつトコ2015…8,000部作成 各地域子育て支援拠点事業所やひろば等で配布。また赤ちゃんセットの同封も行いました。 ・カンガ(エ)ルーカフェ…アクセス数 52,989(月平均4,415)
25	2-1	25	家庭・子育て相談室	子育て支援課	家庭での児童の健全育成の指導（家庭児童相談及び父子相談）、婦人の保護更生指導（婦人相談）、母子家庭・寡婦の身上相談や自立に必要な指導・助言（母子相談）を行います。	母子婦人児童相談室において各種相談業務を実施しました。 ◇相談件数(平成27年3月31日現在) 婦人相談 1,955件 家庭児童相談 881件 父子相談 21件 母子相談 3,203件	母子婦人児童相談室において各種相談業務を実施しました。 ◇相談件数(平成28年3月31日現在) 婦人相談 2,318件 家庭児童相談 934件 父子相談 69件 母子相談 2,385件
26	2-1	26	子育てサロンの運営	地域学習振興課	子育て中の親子が気軽に公民館や分館に集い、会話や情報交換をすることで、精神的な安定感をもたらす、問題解決への糸口となる機会を提供する子育てサロンを運営します。	各地区公民館において、子育て中の親子が仲間と話し合い、一緒に子育てについて話せるような仲間づくり、子育てサークル活動の促進を図りました。 *実施公民館 23館 湯山・伊台・久米・小野・石井・浮穴・荏原・八坂・東雲・桑原・新玉・雄郡 清水・生石・余土・垣生・味生・三津浜・宮前・潮見・久枝・北条・粟井	各地区公民館において、子育て中の親子が仲間と話し合い、一緒に子育てについて話せるような仲間づくり、子育てサークル活動の促進を図りました。 *実施公民館 23館 湯山・伊台・久米・小野・石井・浮穴・荏原・八坂・素鷲・東雲・桑原・新玉・雄郡 清水・生石・余土・垣生・味生・三津浜・宮前・潮見・久枝・北条
37	2-3	37	児童遊園地・公園整備事業	子育て支援課 公園緑地課	地域の安全な遊び場を確保するため、児童遊園地及び公園を設置しています。定期的に遊具等の安全点検を実施します。	（子育て支援課） 地域の空きスペース等に遊具を設置し、児童遊園地として活用しています。定期的に遊具等の安全点検を行い、児童が安心して遊べる空間の確保に努めました。 ○児童遊園地数 140箇所  （公園緑地課） 都市公園として供用を開始し、市民の休息やレクリエーション等の場として幅広く活用しています。職員による公園施設の定期点検や専門業者による遊具の安全点検等を実施して、幼児や児童が安全で安心して遊べる公園づくりに努めました。 ○都市公園数 327箇所	（子育て支援課） 地域の空きスペース等に遊具を設置し、児童遊園地として活用しています。定期的に遊具等の安全点検を行い、児童が安心して遊べる空間の確保に努めました。 ○児童遊園地数 140箇所  （公園緑地課） 都市公園として供用を開始し、市民の休息やレクリエーション等の場として幅広く活用しています。職員による公園施設の定期点検や専門業者による遊具の安全点検等を実施して、幼児や児童が安全で安心して遊べる公園づくりに努めました。 ○都市公園数 333箇所

推進施策	通番	事業名	担当課	事業の概要及び今後の方針	【参考】平成26年度実施状況	平成27年度実施状況																																											
38	2-3	38	児童館等管理運営事業	子育て支援課	<p>児童館及び児童センターを市内7箇所に設置しています。各施設で引き続き各種事業を実施し、地域の児童の健全育成を図ります。</p> <p>新児童館の設置について、既存施設からの距離、子どもの数など地域のバランスを踏まえて、北条文化の森にある保健センター北条分室を改修し、(仮称)北条児童センターを設置することになりました。また、児童の健全育成を目的に、児童館・児童センター7箇所で各種事業に取り組み、26年度の全体の利用者数は増加しました。</p> <p>【延べ利用者数】 中央児童センター 70,266人 (+9,955人) 南部児童センター 127,260人 (+10,076人) 新玉児童館 28,482人 (-18人) 味生児童館 29,455人 (-1,165人) 久米児童館 34,345人 (+2,040人) 久枝児童館 64,648人 (+1,999人) 畑寺児童館 53,142人 (-331人) 合計 407,598人 (+22,556人)</p>	<p>新児童館の設置について、既存施設からの距離、子どもの数など地域のバランスを踏まえて、北条文化の森にある保健センター北条分室を改修し、(仮称)北条児童センターを設置することになりました。また、児童の健全育成を目的に、児童館・児童センター7箇所で各種事業に取り組み、27年度の全体の利用者数は増加しました。</p> <p>【延べ利用者数】 中央児童センター 71,520人 (+1,254人) 南部児童センター 131,653人 (+4,393人) 新玉児童館 33,800人 (+5,318人) 味生児童館 30,381人 (+926人) 久米児童館 38,857人 (+4,512人) 久枝児童館 67,070人 (+2,422人) 畑寺児童館 57,774人 (+4,632人) 合計 431,055人 (+23,457人)</p>																																											
39	2-3	39	育児相談事業	保育・幼稚園課 子ども総合相談センター事務所	<p>認定こども園、公私立の幼稚園及び保育所や地域子育て支援センターでは、専門性を有する職員等の相談事業を実施するとともに、地域の関係機関との連携や協力体制を強化し、保護者に適切な情報を提供します。「子ども総合相談センター事務所」では、子育て親子の交流の場の提供、相談、講習の実施、関連情報の提供等を行っています。</p>	<p>各地域子育て支援センターで、未就園の子育て中の親子を対象に、交流のひろばの提供や相談・援助を実施しました。平成26年度の育児相談件数は、2,154件でした。</p>	<p>各地域子育て支援センターで、未就園の子育て中の親子を対象に、交流のひろばの提供や相談・援助を実施しました。平成26年度の育児相談件数は、2,004件でした。</p>																																										
40	2-3	40	親子ふれあい事業	教育支援センター事務所	<p>親子でさまざまな体験・学習活動等を行うイベントを開催します。親子のふれあい・参加者の交流を深めながら、家庭教育や生涯学習について考える機会を持ち、異年齢交流やボランティアの意識の向上を図ります。</p>	<p>松山市野外活動センターを会場に、子どもたちに自然の中で楽しむ機会を提供し、自然のすばらしさと親子のふれあいを図ることを目的とし、食育レストランを行いました。 ○参加者数 約1,100人(小中学生487名、幼児163名、保護者581名、ボランティアスタッフ110名)</p> <p>松山市総合コミュニティセンターを会場に、職業体験イベント「カルスポキッズジョブ」を開催し、さまざまな職業を体験することで、仕事の楽しさや厳しさを学ぶ機会を創出しました。 参加児童生徒数 1,225人 出展者 47職種 50ブース</p>	<p>松山市野外活動センターを会場に、子どもたちに自然の中で楽しむ機会を提供し、自然のすばらしさと親子のふれあいを図ることを目的とし、食とスポーツを満喫する「食育レストラン&amp;ニンジャマックス」を開催しました。 ○参加者数 1,170人(小中学生425人、幼児171人、保護者464人、ボランティアスタッフ110人)</p> <p>松山市総合コミュニティセンターを会場に、職業体験イベント「キッズジョブまつり」を開催し、さまざまな職業を体験することで、仕事の楽しさや厳しさを学ぶ機会を創出しました。 ○参加者数 約3,025人(小中学生1,465人、保護者約1,400人、ボランティアスタッフ約160人) ○出展者 55職種 59ブース</p>																																										
41	2-3	41	公民館元気活力支援事業	地域学習振興課	<p>公民館や各地域活動に必要な職員の配置や経費を負担し、また地域住民のニーズに即した講座や地域課題解決のための活動を行い、その中で青少年を対象とした学習機会の提供や子どもを持つ親にポイントを置いた学習などを実施します。また、公民館活動の紹介や地域情報を発信することにより、地域に密着した円滑な公民館運営を行い、元気で活気に満ちた人づくり・地域づくりを推進します。</p>	<p>各地区公民館において、子どもを持つ親にポイントをおいた学習活動や親と子が共感できる体験学習活動を実施し、総合的に家庭教育を支援する環境の整備・充実を図りました。</p>	<p>各地区公民館において、子どもを持つ親にポイントをおいた学習活動や親と子が共感できる体験学習活動を実施し、総合的に家庭教育を支援する環境の整備・充実を図りました。</p>																																										
42	2-3	42	野外活動センター運営事業	スポーツ振興課	<p>青少年の健全育成を図るため、野外活動センターの自然や施設を生かし、季節に応じた様々な野外活動を体験する機会を提供します。</p>	<p>野外活動センター実施事業</p> <table border="0"> <tr><td>陶芸教室</td><td>参加</td><td>14人</td></tr> <tr><td>子どもキャンプクラブ育成事業</td><td>参加</td><td>30人</td></tr> <tr><td>タケノコまつり</td><td>参加</td><td>303人</td></tr> <tr><td>野外活動センターまつり</td><td>参加</td><td>7,000人</td></tr> <tr><td>エンジョイホリデーイベント</td><td>参加</td><td>524人</td></tr> <tr><td>虹っ子クラブ</td><td>参加</td><td>91人</td></tr> <tr><td>昆虫観察事業</td><td>参加</td><td>3,274人</td></tr> <tr><td>森のやすらぎ親子キャンプ</td><td>参加</td><td>217人</td></tr> </table> <p>【以下、平成26年度新規事業】 年中花いっぱい運動 参加10,000人 ランニングバイク大会 参加 600人 ツリークライミング「なまけもの」講座 参加 14人</p>	陶芸教室	参加	14人	子どもキャンプクラブ育成事業	参加	30人	タケノコまつり	参加	303人	野外活動センターまつり	参加	7,000人	エンジョイホリデーイベント	参加	524人	虹っ子クラブ	参加	91人	昆虫観察事業	参加	3,274人	森のやすらぎ親子キャンプ	参加	217人	<p>野外活動センター実施事業</p> <table border="0"> <tr><td>森の陶芸教室</td><td>参加</td><td>36人</td></tr> <tr><td>タケノコまつり</td><td>参加</td><td>659人</td></tr> <tr><td>野外活動センターまつり</td><td>参加</td><td>4,000人</td></tr> <tr><td>エンジョイホリデーイベント</td><td>参加</td><td>401人</td></tr> <tr><td>昆虫観察事業</td><td>参加</td><td>3,871人</td></tr> <tr><td>森のやすらぎ親子クラブ</td><td>参加</td><td>322人</td></tr> </table> <p>【27年度新規事業】 ツリークライミング 参加 6人 ランニングバイク大会 参加 700人</p>	森の陶芸教室	参加	36人	タケノコまつり	参加	659人	野外活動センターまつり	参加	4,000人	エンジョイホリデーイベント	参加	401人	昆虫観察事業	参加	3,871人	森のやすらぎ親子クラブ	参加	322人
陶芸教室	参加	14人																																															
子どもキャンプクラブ育成事業	参加	30人																																															
タケノコまつり	参加	303人																																															
野外活動センターまつり	参加	7,000人																																															
エンジョイホリデーイベント	参加	524人																																															
虹っ子クラブ	参加	91人																																															
昆虫観察事業	参加	3,274人																																															
森のやすらぎ親子キャンプ	参加	217人																																															
森の陶芸教室	参加	36人																																															
タケノコまつり	参加	659人																																															
野外活動センターまつり	参加	4,000人																																															
エンジョイホリデーイベント	参加	401人																																															
昆虫観察事業	参加	3,871人																																															
森のやすらぎ親子クラブ	参加	322人																																															
43	2-3	43	放課後子ども教室運営事業	地域学習振興課	<p>放課後や週末等に小学校の余裕教室等を活用して、子どもの安全・安心な活動拠点(居場所)を設け、地域の方々の参画を得て、子どもたちとともに勉強やスポーツ・文化活動、地域住民との交流活動等の取り組みを実施しました。</p> <p>【実施か所数】29か所 【対象校区】生石、久枝、小野、北条、味生・味生第二、石井、新玉、五明、八坂、坂本、立岩、中島、雄郡、椿、潮見、双葉、たちばな、浅海、番町、堀江、粟井、清水、桑原、和気、味酒、正岡、河野、荏原、福音 【登録児童数】2,370人</p>	<p>放課後や週末等に小学校の余裕教室等を活用して、子どもの安全・安心な活動拠点(居場所)を設け、地域の方々の参画を得て、子どもたちとともに勉強やスポーツ・文化活動、地域住民との交流活動等の取り組みを実施しました。</p> <p>【実施か所数】32か所 【対象校区】生石、久枝、小野、北条、味生・味生第二、石井、新玉、五明、八坂、坂本、立岩、中島、雄郡、椿、潮見、双葉、たちばな、浅海、番町、堀江、粟井、清水、桑原、和気、味酒、正岡、河野、荏原、福音、宮前、素鷲、興居島 【登録児童数】2,411人</p>																																											
44	2-3	44	子ども育成事務事業(子ども育成条例関係)	教育支援センター事務所	<p>子どもを育成するための施策を総合的に推進するため、まつやま子ども育成会議を運営します。また、子どもたちが自らの意見や考えを出し合い、市に対して提案等を行う「まつやま子ども会議」のあり方について検討します。さらに、子ども育成条例やまつやま子どもの日の趣旨等の普及を図るため、まつやま子どもの日及びまつやま子ども週間には、各種事業を実施します。</p> <p>・まつやま子ども育成会議の運営(条例第16条関係) 子どもを育成するための施策を総合的に推進するため、「まつやま子ども育成会議」を開催し、必要な事項を研究・協議しました。 ・まつやま子どもの日の行事等の実施(条例第15条ほか) 子どもを社会全体で広くむことを推進するため、まつやま子どもの日において「市有施設の無料化」や各種協賛イベントを開催しました。 【施設数】16 【施設利用延べ人数】5,926人</p>	<p>子どもを育成するための施策を総合的に推進するため、「まつやま子ども育成会議」を2回開催し、必要な事項を研究・協議しました。 ・まつやま子どもの日の行事等の実施(条例第15条ほか) 子どもを社会全体で広くむことを推進するため、まつやま子どもの日において「市有施設の無料化」や各種協賛イベントを開催しました。 【施設数】14 【施設利用延べ人数】11,873人</p>																																											

推進施策	通番	事業名	担当課	事業の概要及び今後の方針	【参考】平成26年度実施状況	平成27年度実施状況	
45	2-3	45	青少年センター施設管理事業	教育支援センター事務所	施設を利用する個人及び団体が、年間を通じて利用できる環境整備、受付等の管理運営業務を実施しています。青少年の交友と研さんの「場」と「機会」を提供し、社会性豊かな青少年の健全育成を図ります。	青少年の自主活動の「場」と「機会」を提供し、社会性豊かな青少年の健全育成を図る教育施設として運営実施しました。 個人利用者：26,549人 団体利用者：122,057人 合計：148,606人  青少年が無料で英会話を楽しめる「イーカフェ」、中学生・3年生を対象とした英会話宿泊「イートークキャンプ」、若者自身が講座をコーディネートする「まつやま自由科大学」を新たに開催し、青少年のコミュニティを創出した。	青少年の自主活動の場と機会を提供し社会性豊かな青少年の健全育成を図るため、松山市青少年センターの運営を行いました。 ○利用者合計152,870人（個人利用者26,456人、団体利用者126,414人）  青少年が無料で英会話を楽しめる「イー・カフェ」、中学2年生・3年生を対象とした英会話宿泊「イー・トーク・キャンプ」、若者自身が講座をコーディネートする「まつやま自由科大学」を開催し、青少年のコミュニティを創出しました。 ○イー・カフェ 利用延人数2,711人 ○イー・トーク・キャンプ 参加者61人（中学生36人、外国人スタッフ25人） ○まつやま自由科大学 12講座、参加者合計309人
46	2-3	46	不登校対策総合推進事業	教育支援センター事務所	教育総合相談、訪問交流型不登校対策、パソコンを使った学校復帰支援、適応指導教室の運営などにより、不登校児童生徒への学校復帰や社会的自立に向けたさまざまな支援を行います。	不登校児童生徒に対して訪問や来所等での相談支援を実施する「訪問交流型不登校対策」、引きこもり傾向にある不登校児童生徒に対してパソコンを使って学習支援やコミュニケーション支援を実施する「ITを活用した学校復帰支援」、小集団活動や体験活動を通じて学校復帰を目指す「松山わかあゆ教室」「北条文化の森教室」の運営などを通じて、社会的自立や学校復帰に向けた支援を行いました。  (延べ相談件数) 訪問交流型不登校対策 : 3,046件 ITを活用した学校復帰支援 : 1,615件 適応指導教室 : 3,777件	不登校児童生徒に対して訪問や来所等での相談支援を実施する「訪問交流型不登校対策」、引きこもり傾向にある不登校児童生徒に対してパソコンを使って学習支援やコミュニケーション支援を実施する「ITを活用した学校復帰支援」、小集団活動や体験活動を通じて学校復帰を目指す「松山わかあゆ教室」「北条文化の森教室」の運営などを通じて、社会的自立や学校復帰に向けた支援を行いました。  (延べ相談件数) ○訪問交流型不登校対策 : 3,426件 ○ITを活用した学校復帰支援 : 1,165件 ○適応指導教室 : 3,153件
47	2-3	47	問題行動等対策事業	教育支援センター事務所	児童生徒の問題行動等について、教師や関係機関との連携を図りながら、児童生徒やその保護者とのかわり、生徒指導面等への支援や自立支援教室の運営を行います。	児童生徒の問題行動について、生徒指導面に経験豊かな職員等をチームで学校に派遣、教師や関係機関とも連携・協力しながら、児童生徒や保護者への支援を行いました。さらに、学校での対応が困難が児童生徒に対して体験活動等を通じて学校復帰や社会的自立を目指す「松山市自立支援教室」を運営しました。  (延べ相談件数) 問題行動等対策 : 366件 自立支援教室 : 89件	児童生徒の問題行動等について、生徒指導面に経験豊かな職員等をチームで学校に派遣し、教師や関係機関とも連携・協力しながら児童生徒や保護者への支援を行いました。さらに学校での対応が困難な児童生徒に対し、体験活動等を通じて学校復帰や社会的自立を目指す「松山市自立支援教室」を運営しました。  (延べ相談件数) ○問題行動等対策 : 222件 ○自立支援教室 : 63件
48	2-3	48	おはなし会事業	中央図書館事務所	乳幼児・児童を対象としたおはなし会を、市立図書館各館で実施するとともに、市立幼稚園を会場に出前おはなし会を開催するほか、保健所では初妊婦を対象とした絵本講座を開催します。また、おはなしボランティア養成講座などを開催し、ボランティアの育成や普及に努めます。	松山市立図書館では、各館において『おはなし会』を実施しました。 ○中央図書館39回、○三津浜図書館11回、○北条図書館11回、○中島図書館2回、○全4館一斉開催 1回  妊婦さん、0歳児の親子対象の『おはなし会』を市立幼稚園や保健所を会場に9回開催しました。また、おはなしボランティア入門教室（8回コース×2時間）、おはなしボランティアステップアップ教室（2回）を開催し、おはなしボランティアの育成や読み聞かせの普及に取り組みしました。	松山市立図書館では、各館において『おはなし会』を実施しました。 ○中央図書館40回、○三津浜図書館12回、○北条図書館21回、○中島図書館2回、  保健所で妊婦さん対象の『絵本講演会』を4回、市立幼稚園で0歳児の親子対象の『おはなし会』を5回開催しました。また、おはなしボランティア入門教室（全8回）、おはなしボランティアステップアップ教室（全3回）を開催し、おはなしボランティアの育成や読み聞かせの普及に取り組みしました。
49	2-3	49	幼年少年消防クラブ育成事務	消防局地域防災課	幼年消防クラブ加入園及び少年消防クラブ加入校を対象に、「1日消防学校」や「みんなの消防フェスタ」への参加等を通じて防火防災についての学習を実施します。今後も児童の防火・防災意識の啓発に努めます。	若年層の防火・防災思想の普及を図り、未来の防災リーダーを育成するため、市総合コミュニティセンターで「みんなの消防フェスタ2014」を開催し、体験型の防火・防災に関するブースを設け、乗車体験・活動体験・防災学習等を多くの幼年少年消防クラブ員に参加していただきました。また、少年消防クラブ員を対象に「1日消防学校」を開催し、専門的な防火・防災・応急手当等について学ぶとともに、初めての試みとして「消防大運動会」を実施し、学校間の親睦を図りながら、クラブ員同士の交流を深めました。幼年消防クラブには、「防災かみしばい・防災かるた教室」を開催して楽しく防災について学習し、さらに、幼児向けのカードゲーム「ぼうさいダック」を「ぼうさいのうた」のリズムに合わせて、楽しく歌って踊りながら防災の初歩について学びました。	若年層の防火・防災思想の普及を図り、未来の防災リーダーを育成するため、市総合コミュニティセンターで「みんなの消防フェスタ2015」を開催し、体験型の防火・防災に関するブースを設け、乗車体験・活動体験・防災学習等を多くの幼年少年消防クラブ員に参加していただきました。また、少年消防クラブ員を対象に「1日消防学校」を開催し、専門的な防火・防災・応急手当等について学ぶとともに、「消防大運動会」を実施し、学校間の親睦を図りながら、クラブ員同士の交流を深めました。幼年消防クラブには、「防災かみしばい・防災かるた教室」を開催して楽しく防災について学習し、さらに、幼児向けのカードゲーム「ぼうさいダック」を「ぼうさいのうた」のリズムに合わせて、楽しく歌って踊りながら防災の初歩について学びました。
50	2-3	50	児童クラブ運営事業（放課後児童健全育成事業）【再掲】	子育て支援課	推進施策【2-1】 通番13参照		
51	2-4	51	いきがい交流センターしみず管理運営事業	高齢福祉課	小学校の余裕教室を活用し、高齢者の生きがいづくりの場として「地域交流事業」などを実施し、高齢者と児童の交流を行っています。また、「ふれあい教室」などを開催し、地域福祉の拠点として福祉・学習コミュニティの形成と融合を図ります。	「いきがい交流センターしみず」は、平成14年4月、県内初の試みとして、学校の余裕教室を活用し、地域交流事業や趣味講座等を実施するとともに、福祉・教育関係機関との連携のもと、松山市民、特に清水地区を中心とした近隣エリアに居住、活動する方々の福祉・学習コミュニティの形成と学社融合を推進する地域福祉の拠点として設置されました。 センターでは、地域交流事業として高齢者の生きがいづくりと介護予防を目的とした「友遊しみず」や高齢者及びその家族のための各種講座、ふれあい教室などを行っているほか、清水地区社会福祉協議会・清水小学校との協働事業として児童との交流が行われています。 各学年との交流授業については、平成14年度から引き続いて、交流授業の内容や目的に応じて、「友遊しみず」の方だけでなく、清水地区社協関係者や地区社協に登録している協力会員（ボランティア）、民生児童委員の方、町内会連合会の方などにご協力いただき、児童と高齢者・地区住民の相互交流として、内容の充実した交流授業を実施いたしました。（交流授業に関わる地区住民の方たちにとっても、児童の学習の場に関わることで、新たな「生きがい」にもつながっています） また、平成18年度から引き続き、昼食交流や昼休みなど日常交流も行い、児童にとっての「第三の場」になっていますし、18歳～35歳の若者のボランティア「しみずサポートボランティア」が、おにいちゃん、おねえちゃんとなり、児童の見守りと高齢者（利用者）と児童との交流の橋渡し役、交流授業のサポート役として活動しています。平成26年度は、しみずサポートボランティアの企画により、地域の方と子どもたちが学校授業以外の時間に交流ができればと「絵手紙でプレゼント大作戦～大切な人への思いを贈り物にしよう～」を清水地区社会福祉協議会の協力を得て開催するとともに、清水小学校PTA主催の「清水小ふれあいバザー」へもブース参加し、水引細工を使ったストラップを作るなど地域の方々と交流を図りました。	「いきがい交流センターしみず」は、平成14年4月、県内初の試みとして、学校の余裕教室を活用し、地域交流事業や趣味講座等を実施するとともに、福祉・教育関係機関との連携のもと、松山市民、特に清水地区を中心とした近隣エリアに居住、活動する方々の福祉・学習コミュニティの形成と学社融合を推進する地域福祉の拠点として設置されました。 センターでは、地域交流事業として高齢者の生きがいづくりと介護予防を目的とした「友遊しみず」や高齢者及びその家族のための各種講座、ふれあい教室などを行っているほか、清水地区社会福祉協議会・清水小学校との協働事業として児童との交流が行われています。 各学年との交流授業については、平成14年度から引き続いて、交流授業の内容や目的に応じて、「友遊しみず」の方だけでなく、清水地区社協関係者や地区社協に登録している協力会員（ボランティア）、民生児童委員の方、町内会連合会の方などにご協力いただき、児童と高齢者・地区住民の相互交流として、内容の充実した交流授業を実施しています。（交流授業に関わる地区住民の方たちにとっても、児童の学習の場に関わることで、新たな「生きがい」にもつながっています） また、平成18年度から引き続き、昼食交流や昼休みなど日常交流も行い、児童にとっての「第三の場」になっていますし、18歳～35歳の若者のボランティア「しみずサポートボランティア」が、おにいちゃん、おねえちゃんとなり、児童の見守りと高齢者（利用者）と児童との交流の橋渡し役、交流授業のサポート役として活動しています。平成27年度は、しみずサポートボランティアの企画により、地域の方と子どもたちが学校授業以外の時間に交流ができればと「アクリル毛糸でお掃除モップをつくらう！」を清水地区社会福祉協議会の協力を得て開催するとともに、清水小学校PTA主催の「清水小ふれあいバザー」へもブース参加し、毛糸を使ってシュシュを作るなど地域の方々と交流を図ります。
52	2-4	52	親子ふれあいコミュニティ広場事業	保育・幼稚園課	市立幼稚園の園庭を開放し、親子で楽しく過ごす時間と場所を提供します。親・子・教師がともにいろいろな遊びを楽しんだり、子育て相談をしたりする中で、子どもの成長を感じ、育児の意欲を喚起するとともに、育児不安の解消、保護者同士のつながりを広げる機会としていきます。また、私立幼稚園の同種事業の周知にも努めます。	幼稚園での教育活動終了後1時間（13:30～14:30）園庭を開放し、未就園児親子も含め親子で楽しく過ごす時間と場、季節に応じた遊びを提供し、親・子ども・教師がともにいろいろな遊びを楽しんだり、子育て相談をしたりする中で、子どもの成長を感じ育児の意欲を喚起するとともに、育児不安解消を図る機会にしました。加えて、親同士のつながりを広げる機会にもなり、幼稚園ごとに保護者サークルの活動も活発になりました。また、私立幼稚園の同種事業についての問い合わせにも対応しました。	幼稚園での教育活動終了後（14:30～15:00）園庭を開放し、未就園児親子も含め親子で楽しく過ごす場を提供しました。季節に応じた遊びや親子の触れ合いを通じ、親・子ども・教師がともに楽しんだり、子育て相談をしたりする中で、子どもの成長を感じ育児の意欲を喚起するとともに、育児不安解消を図る機会にしました。加えて、親同士のつながりを広げる機会にもなり、幼稚園ごとに保護者サークルの活動も活発になり、子育ての楽しさを実感しあえる場としての充実を図りました。また、私立幼稚園の同種事業についての問い合わせにも対応しました。

推進施策	通番	事業名	担当課	事業の概要及び今後の方針	【参考】平成26年度実施状況	平成27年度実施状況	
53	2-4	53	商店街空洞化対策事業	地域経済課	商店街振興組合等と連携して、商店街の空き店舗を活用した住民の福祉又は利便向上につながる教育文化事業や社会福祉事業を通じて、高齢者・若者・子育て世帯等のコミュニティ形成を図る事業を推進します。	大街道の空き店舗を活用し、保育・託児機能を備えた、まちなかのコミュニティスペース「松山市まちなか子育て・市民交流センター」（愛称：まちコムスポット てくるん）を運営しています。センター内には、親子連れのみならず幅広い年代の方々が安心して中心市街地で買い物をしていただけるように授乳室や多目的トイレ、キッズスペース、無料休憩スペースを設置するとともに、ベビーカーや車いす、買物カートも無料で貸出しを行っています。また、てくるん内では様々なイベントを実施しているだけでなく、一時預かりのサービスを日曜・祝日に実施しています。平成27年3月には、利用者売数が30万人を達成しました。	大街道の空き店舗を活用し、保育・託児機能を備えた、まちなかのコミュニティスペース「松山市まちなか子育て・市民交流センター」（愛称：まちコムスポット てくるん）を運営しています。センター内には、授乳室やおむつ交換のできる多目的トイレやお子様にご自由に遊んでいただけるキッズスペース、また、無料休憩スペースを設置するとともに、ベビーカーや車いす、買物カートも無料で貸出しするなど、親子連れのみならず幅広い年代の方々が安心して中心市街地で買い物をしていただけるサービスを、毎日（1月1日を除く）提供しています。また、託児室での一時預かりも日曜・祝日に実施しています。平成24年3月24日のオープン以来、たくさんの方にご利用いただき、平成27年10月に40万人を突破しました。  その他にも、松山銀天街商店街振興組合が松山市商店街空洞化対策事業補助金を活用して、銀天街内の空き店舗を活用し、キッズスペースのある休憩所「きらりん」を平成27年12月に開設しました。
54	2-4	54	地域活動クラブ事業	子育て支援課	みらいクラブ（レクリエーションやボランティア活動を通じて地域の子育て応援団として活動している団体）を支援することにより、地域に根ざした子育て支援活動を推進します。	地域の子育て応援団「みらいクラブ」12団体に対して活動助成を行い、それぞれの地域において「親子のふれあい交流活動」「会員の資質向上のための研修活動」「地域の児童公園の安全点検活動」「子育てサロンの開催」「児童館等のイベントへの参画活動」等、地域で各種ボランティア活動が展開されました。	地域の子育て応援団「みらいクラブ」11団体に対して活動助成を行い、それぞれの地域において「世代間のふれあい交流活動」「会員の資質向上のための研修活動」「地域の児童公園の安全点検活動」「子育てサロンの開催」「児童館等のイベントへの参画活動」等、地域で各種ボランティア活動が展開されました。
55	3-1	55	1歳6か月児健診	健康づくり推進課	1歳6か月～2歳未満の幼児を対象に集団健診及び内科診療を行い、幼児の健康の保持推進を図ります。今後も、個人通知や広報掲載等により受診勧奨を行い受診率の向上に努めます。	（事業内容） 集団健診で、問診、身体計測、ティンパノメトリー検査、歯科健診・相談、育児相談、栄養相談、発達相談を行い、その後、医療機関にて内科診療を（個別医療機関委託）行いました。 ※精密健康診査は医療機関委託（実施施設、回数及び参加数） 松山市保健所及び保健センター南部分室にて集団健診を年間60回実施しました。内科健診後の受診数は3,999人。（受診率90.7%）	（事業内容） 集団健診で、問診、身体計測、ティンパノメトリー検査、歯科健診・相談、育児相談、栄養相談、発達相談を行い、その後、医療機関で内科診療を行いました。精密健康診査は医療機関委託で行っています。（実施施設、回数及び参加数） 松山市保健所及び保健センター南部分室にて集団健診を年間60回実施しました。内科健診後の受診数は3,927人で受診率は90.9%でした。
56	3-1	56	3歳児健診	健康づくり推進課	3歳～4歳未満の幼児を対象に問診、身体計測、診察、歯科健診、育児相談等を行い、幼児の健康の保持推進を図ります。今後も、個人通知や広報掲載等により受診勧奨を行い受診率の向上に努めます。	（事業内容） 集団健診で、問診、身体計測、ティンパノメトリー検査、診察、歯科健診・相談、育児相談、栄養相談、発達相談を行いました。 ※精密健康診査は医療機関委託（実施施設、回数及び参加数） 松山市保健所及び保健センター南部分室にて集団健診を年間60回実施しました。受診数は4,137人。（受診率89.6%）	（事業内容） 集団健診で、問診、身体計測、ティンパノメトリー検査、診察、歯科健診・相談、育児相談、栄養相談、発達相談を行いました。精密健康診査は医療機関委託で行っています。（実施施設、回数及び参加数） 松山市保健所及び保健センター南部分室にて集団健診を年間60回実施しました。受診数は4,044人で受診率は90.0%でした。
57	3-1	57	はじめてのパパ・ママのための教室	健康づくり推進課	妊娠20週～35週の初妊婦と夫を対象に、お風呂の入れ方の実習や講演を行い、妊婦、出産及び育児についての正しい知識の普及に努めます。夜間、休日に実施し、夫が参加しやすい環境づくりに努めます。	（事業内容） 実習「赤ちゃんのお風呂の入れ方」と 講演「親が親になるとき」を行いました。（実施施設、回数及び参加数） 松山市保健所にて、年間8回実施し、620人の参加がありました。	（事業内容） 実習「赤ちゃんのお風呂の入れ方」と 講演「親が親になるとき」を行いました。（実施施設、回数及び参加数） 松山市保健所にて、年間8回実施し、654人の参加がありました。
58	3-1	58	はじめてのママのための教室	健康づくり推進課	妊娠16週～35週の初妊婦を対象に歯科講演、絵本・母乳育児に関する講話、赤ちゃん人形を使用した実習を実施します。また、座談会を設けて、妊婦同士の交流の場となるように取り組んでいきます。	（事業内容） 1回目 講演 ①おっぱいについて知ろう ②絵本ってステキ 座談会 2回目 講演 赤ちゃんについて知ろう 実習 子育て体験 座談会 （実施施設）松山市保健所 （計画）2回×4コース実施 （参加人数）156名（延べ人数 270名）	（事業内容） 1回目 講演 ①おっぱいについて知ろう ②絵本ってステキ 座談会 2回目 講演 赤ちゃんについて知ろう 実習 子育て体験 座談会 （実施施設）松山市保健所 （計画）2回×4コース実施 （参加人数）134名（延べ人数242名）
59	3-1	59	赤ちゃん相談	健康づくり推進課	乳児の健康状態を観察し、保護者の育児不安の解消に努め、乳児の健やかな発育・発達を促すため、相談・指導を行います。保護者のライフスタイルの変化に伴う相談の多様化や、参加者数の増加等、状況に合わせた改善を行います。	（実施会場）松山市保健所・保健センター分室・公民館・児童館等 8ヶ所 （事業内容）保健師および栄養士による、身体計測・育児相談・離乳食相談を実施しました。 （開催回数）年間114回 （参加数）5,184人 の参加がありました。	（実施会場）松山市保健所・保健センター分室・公民館・児童館等 8ヶ所 （事業内容）保健師および栄養士による、身体計測・育児相談・離乳食相談を実施しました。 （開催回数）年間113回 （参加数）5,063人 の参加がありました。
60	3-1	60	妊婦一般健康診査事業【再掲】	健康づくり推進課	推進施策【2-1】 通番16参照		
61	3-1	61	乳児一般健康診査	健康づくり推進課	3～4か月の乳児及び9～10か月の乳児を対象に、出生届の受付時に乳児一般健康診査受診票を交付し、医療機関にて個別健康診査を行います。今後も継続して受診勧奨を行います。	（実施方法）赤ちゃんセット申請時に受診票を交付し、県内医療機関に委託して個別健康診査を実施しました。（受診数） 3～4か月児 4,247人 95.5%、 9～10か月児 4,084人 88.7%でした。	（実施方法）赤ちゃんセット申請時に受診票を交付し、県内医療機関に委託して個別健康診査を実施しました。（受診数） 3～4か月児 4,134人 95.5%、 9～10か月児 4,179人 93.3%でした。
62	3-1	62	乳児家庭全戸訪問事業（こんにちは赤ちゃん事業）【再掲】	健康づくり推進課	推進施策【2-1】 通番17参照		
63	3-1	63	予防接種	保健予防課	予防接種法で定められた各予防接種の啓発や実施を行うことにより、疾病の発生・まん延を予防し、子どもたちの健康の保持・増進を図ります。	H i b感染症予防接種 17,642人／小児の肺炎球菌感染症予防接種 17,557人／四種混合予防接種 16,841人／三種混合予防接種 792人／ポリオ予防接種 2,695人／BCG予防接種 4,248人／水痘予防接種 8,707人／麻しん・風しん予防接種 8,485人／日本脳炎予防接種 17,533人／二種混合予防接種 3,100人／ヒトパピローマウイルス感染症予防接種 26人	H i b感染症予防接種 16,863人／小児の肺炎球菌感染症予防接種 16,831人／四種混合予防接種 17,015人／三種混合予防接種 10人／ポリオ予防接種 507人／BCG予防接種 4,317人／水痘予防接種 9,235人／麻しん・風しん予防接種 8,403人／日本脳炎予防接種 16,122人／二種混合予防接種 2,985人／ヒトパピローマウイルス感染症予防接種 17人
64	3-1	64	乳幼児を持つ親のための救命講習	消防局警防課	乳幼児を持つ保護者を対象に、心肺蘇生法、応急手当、A E Dの取扱い、救急車の適正利用等を内容とする講習を行います。今後も乳幼児の救命手当等の普及啓発に努めます。	乳幼児を持つ親を対象とした救命講習として、10名の定員（託児5名あり）で、5月から11月の第3金曜日に定期開催を実施しました。 受講希望者の多くは託児希望者であり、申し込み初日で定員になることもあります。 託児については、保育課及び子育て支援課の協力を得て実施しました。 講習内容は、「普通救命Ⅲ」とし、講習終了後に修了証を発行しました。 平成26年度中においては、41名の方が受講（17名託児申込）されました。	乳幼児を持つ親を対象とした救命講習として、10名の定員（託児5名あり）で、5月から10月の月1回（土曜日）に定期開催を実施しました。 受講希望者の多くは託児希望者であり、申し込み初日で定員になることもあります。 託児については、保育課及び子育て支援課の協力を得て実施しました。 講習内容は、「普通救命Ⅲ」とし、講習終了後に修了証を発行しました。 平成27年度中においては、99名の方が受講されました。
65	3-1	65	パパ・ママ救命講習	消防局警防課 健康づくり推進課	妊産婦の夫婦対象に、保健師による新生児・乳児の身体的特徴についての講義と救急隊員等による心肺蘇生法、A E Dの取扱い、気道異物除去等を内容とする講習を行います。	（後期まつやま子育てゆめプランに記載なし）	妊産婦とその夫を対象とした救命講習として、10組20名の定員で、5月から10月の月1回（土曜日）に定期開催を実施しました。 講習内容は、保健師と救急隊員による講習を行い、終了後に修了証を発行しました。 平成27年度中においては、38名の方が受講されました。

推進施策	通番	事業名	担当課	事業の概要及び今後の方針	【参考】平成26年度実施状況	平成27年度実施状況						
66	3-1	66 不妊治療費助成事業	健康づくり推進課	特定不妊治療等を受けている夫婦の経済的な負担の軽減を図るため、指定医療機関での治療に要した費用の全部又は一部を助成します。	(後期まつやま子育てゆめプランに記載なし)	<p>特定不妊治療(体外受精及び顕微授精)を受けた夫婦に対し、その治療にかかる費用の一部を助成しました。</p> <p>(助成内容)</p> <p>I 助成金額(上限)</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 新鮮胚移植 15万円</li> <li>2 凍結胚移植(採卵及び受精後、母体の状態を整えてから胚移植を行うとの当初からの治療方針に基づく場合に限る。) 20万円※</li> <li>3 以前に凍結した胚を解凍して実施する胚移植 7万5千円</li> <li>4 体調不良等により移植の目途が立たないことによる治療終了 15万円</li> <li>5 受精不可又は異常受精等による治療中止 15万円</li> <li>6 卵が得られない又は状態の良い卵が得られないことによる治療中止 7万5千円</li> </ol> <p>※凍結胚移植は、助成限度額を5万円上乗せ。市単独事業分(平成26年度～)</p> <p>○上記に加えて、初回治療に限り(3・6を除く)、さらに15万円限度に上乗せ。(H28.1.20～)</p> <p>○上記に加えて、男性不妊治療にさらに15万円限度に上乗せ。(H28.1.20～)</p> <p>II 助成回数</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 新たに助成制度を利用される方のうち、初めて助成を受ける際の治療開始時の妻の年齢が40歳未満であるときは6回まで</li> <li>2 上記以外(40歳以上又は助成を受けたことがある)方は、1年度あたり2回(初めて申請をする方は初年度のみ3回)、通算5年、合計10回まで</li> </ol> <p>(※平成26・27年度は新制度への移行期間で、平成28年度からは新制度の完全施行に伴い、助成回数に変更あり。)</p> <p>(助成実績)</p> <table border="1"> <tr> <td></td> <td>【助成件数】</td> <td>【助成金額】</td> </tr> <tr> <td>H27年度</td> <td>612件</td> <td>104,095千円(※うち、13,690千円が市単独事業分)</td> </tr> </table>		【助成件数】	【助成金額】	H27年度	612件	104,095千円(※うち、13,690千円が市単独事業分)
	【助成件数】	【助成金額】										
H27年度	612件	104,095千円(※うち、13,690千円が市単独事業分)										
68	3-2	68 地域の子育て家庭に対する食育事業	保育・幼稚園課	「松山市食育推進計画」に基づき、地域子育て支援センター・地域等の関係機関が連携し、保育所以外の子育て家庭を対象に、食に関する講習会、個別の栄養相談、離乳食等食に関する情報発信等を実施しました。	「松山市食育推進計画」に基づき、地域子育て支援センター・地域等の関係機関が連携し、保育所等以外の子育て家庭を対象に、食に関する講習会、個別の栄養相談、離乳食等食に関する情報発信等を実施しました。	「松山市食育推進計画」に基づき、地域子育て支援センター・地域等の関係機関が連携し、保育所等以外の子育て家庭を対象に、食に関する講習会、個別の栄養相談、離乳食等食に関する情報発信等を実施しました。						
69	3-2	69 まちの食育講座	健康づくり推進課	各地域で、幅広い世代を対象に、栄養士や食生活改善推進員による講習と調理実習を行います。正しい食事のあり方、知識の普及、郷土料理の伝承等栄養の情報を発信し、健康づくりを支援します。	栄養士や食生活改善推進員を中心に、幼児・生徒やその保護者・家族を対象とした講習会や料理実習を行い、正しい食事のあり方、栄養に関する知識の普及等を発信することで、食育を推進し、市民の健康づくりを支援しました。平成26年度は、講習会を185回(37地区で5回、3テーマを設定)開催したところ、計4,249名の参加がありました。	栄養士や食生活改善推進員を中心に、幼児・生徒やその保護者・家族を対象とした講習会や料理実習を行い、正しい食事のあり方、栄養に関する知識の普及等を発信することで、食育を推進し、市民の健康づくりを支援しました。平成27年度は、講習会を148回(37地区で4回、2テーマを設定)開催したところ、計3,441名の参加がありました。						
70	3-2	70 栄養相談事業	健康づくり推進課	管理栄養士等が食べ物・栄養に関する相談や食事指導等を行います。離乳等の食事に関する個別指導も行っていきます。乳幼児期から思春期を通じて発達段階に応じた具体的な指導を行い、栄養・食生活等の情報提供なども実施していきます。	保健所内に離乳食等の食事に関する相談窓口を開設し、個別相談に応じることで相談者に対し栄養・食生活改善にかかる指導・助言を行いました。平成26年度の相談は、乳幼児に関するものが105件ありました。	保健所内に離乳食等の食事に関する相談窓口を開設し、個別相談に応じることで相談者に対し栄養・食生活改善にかかる指導・助言を行いました。平成27年度の相談は、乳幼児に関するものが105件ありました。						
71	3-2	71 子どもの食物アレルギー講座	健康づくり推進課	子どもの食物アレルギーについて、正しい情報や知識を提供し、不安や悩みが軽減できるよう支援をします。	食物アレルギーをもつ乳幼児・児童の保護者や家族、保育園等の施設関係者などを対象に、医師による講演、座談会を行い、参加者どうしの交流を深めるとともに、食物アレルギーに関する最新情報の提供や食材の調理方法について普及・啓発を行いました。平成26年度は、講習会を1回開催し、73名の参加がありました。	食物アレルギーをもつ乳幼児・児童の保護者や家族、保育園等の施設関係者などを対象に、医師による講演を行い、食物アレルギーに関する最新情報の提供や食材の調理方法について普及・啓発を行いました。平成27年度は、講習会を1回開催し、69名の参加がありました。						
72	3-2	72 モグモグ離乳食講座	健康づくり推進課	赤ちゃんの初めての食事である離乳食を、実際に見たり食べたりすることで、子どもの成長に伴った進め方を知ることができる講座を実施します。	(後期まつやま子育てゆめプランに記載なし)	妊婦から生後8か月児までの保護者を対象に、離乳期の食について講話と試食等を行い、すこやかな食生活の形成を支援しました。平成27年度は、4回開催し、156名の参加がありました。						
73	3-2	73 学校給食での食育推進事業	保健体育課	「よりよい学校給食推進実施計画」に基づき、食育の推進に努めます。また、栄養教諭等を中心として、学校現場での食育推進体制の充実を図るとともに、家庭での食育を推進するため、関係団体と連携して親子体験型食育イベントを引き続き実施します。	児童・生徒が食に対して関心を持ってもらえるように、学校給食週間を実施し、食育を推進しています。学校給食週間では、食に関するポスター・標語の作成、栄養教諭による給食や食育の授業、また児童生徒・栄養教諭・給食調理員参加の集会などを行いました。その他学校ごとに、栄養教諭・学校栄養職員が教諭等と連携をとりながら、関連授業や学級活動において、特色ある取組みを進めました。また、松山市小中学校PTA連合会と協働して、児童や保護者を対象とした「第7回親子ふれあい食育レストラン」を開催しました。その他、民間の手法を取り入れた食育をはじめとするよりよい学校給食の実現のため、新たに北条学校給食共同調理場に民間委託を導入した。	児童・生徒が食に対して関心を持ってもらえるように、学校給食週間を実施し、食育を推進しています。学校給食週間では、食に関するポスター・標語の作成、栄養教諭による給食や食育の授業、また児童生徒・栄養教諭・給食調理員参加の集会などを行いました。その他学校ごとに、栄養教諭・学校栄養職員が教諭等と連携をとりながら、関連授業や学級活動において、特色ある取組みを進めました。また、松山市小中学校PTA連合会と協働して、児童や保護者を対象とした「第8回親子ふれあい食育レストラン」を開催しました。						

推進施策	通番	事業名	担当課	事業の概要及び今後の方針	【参考】平成26年度実施状況	平成27年度実施状況
74	3-3	74 思春期健康教育	健康づくり推進課 保健予防課 医事業事課	思春期の児童・生徒の身体・心の変化や性感染症等について伝えるとともに、妊婦体験や子育て体験を行う機会の提供及びタバコやアルコール、薬物に関する情報の提供や、これらに関する相談事業を実施します。また、思春期にかかわる教職員や保護者に対して講演会等を開催します。	<p>《事業実施内容》 依頼のあった市内の小中学校で、児童・生徒あるいは保護者を対象に性の健康に関する正しい知識について健康教育を実施しました。</p> <p>【実施状況】 ○思春期の性の健康に関する教育＝5回 延参加者数282人 内訳：小学校2校、延参加者数151人 中学校1校 延参加者数49人 その他2回 参加者数82人 (延参加者数内訳：児童・生徒210名、保護者10名、その他（学校関係者）62名)</p>	<p>(健康づくり推進課) 《事業実施内容》 依頼のあった市内の小中学校等からの依頼を受け、児童・生徒あるいは保護者を対象に性の健康に関する正しい知識について健康教育を実施します。</p> <p>【実施状況】 H27年度は依頼がありませんでした。</p> <p>(医事業事課) 平成27年4月から愛媛県薬物の濫用の防止に関する条例が施行されたことを受け、愛媛県と連携し、危険ドラッグをはじめとする薬物に関する情報の発信や相談対応の充実、地域イベント等での啓発活動を行いました。また、学校から依頼のあった啓発資料「危険ドラッグは、ダメ。ゼッタイ。(子ども版)」を、ご家庭に配布いただくことで、正しい知識と判断につながる取組を行いました。さらには、平成27年度から、新たに出前講座を開始し、社会全体で危険ドラッグを排除する市民意識の醸成を図りました。</p> <p>【実施状況】 ・出前講座(危険ドラッグは、ダメ。ゼッタイ。) 市内46会場、参加人数1,074名 ・地域イベント等での活動 みんなの生活展、健康フェスタ in えひめ2015、聖カタリナ大学祭、松山大学祭</p> <p>(保健予防課) 《事業実施内容》 市内の高校等からの依頼を受け、生徒を対象にH I V、エイズ、性感染症について正しい知識の普及を目的として、健康教育を実施します。</p> <p>【実施状況】 健康教育：高校4校 延参加数 1665人、大学1校 延参加数150人 イベント：松山大学祭</p>
75	3-4	75 小児の一次救急医療の確保	医事業事課	松山医療圏内の開業医・勤務医の協力を得て、21時から翌朝8時までの間、松山市急患医療センターに小児科医を配置し、夜間の小児救急医療を確保するとともに、休日については松山市医師会が運営する休日診療所に対して支援を行うことで休日の救急医療を確保しています。	<p>急患医療センターにおいて、ほぼ24時間365日をカバーする小児救急医療を提供し、二次救急の後方支援病院を整備することにより、休日・夜間におけるあらゆる症状の急病者に対して救急医療を提供しています。それにより、市民が安心して受診できることによる育児不安の解消、子育て支援が図られています。</p> <p>◇『松山市急患医療センター』の診療体制 ・小児科／毎日(1月1日を除く)21:00～翌8:00 ・内 科／月～土曜日(1月1日を除く)21:00～24:00 ・26年度実績／小児科受診者数：11,741人</p>	<p>急患医療センター、松山市医師会休日診療所で、休日・夜間における小児の一次救急医療を提供し、市民が安心して受診できることによる育児不安の解消、子育て支援が図られています。</p> <p>◇『松山市急患医療センター』の診療体制 ・小児科／毎日(1月1日を除く)21:00～翌8:00 ・内 科／月～土曜日(1月1日を除く)21:00～24:00 ・27年度実績／小児科受診者数：11,252人</p>
76	3-4	76 小児救急医療体制の整備	医事業事課	松山医療圏内3市3町(松山市、伊予市、東温市、松前町、砥部町、久万高原町)が運営に関して応分の負担を行い、小児の急病者へ応急処置を行う一次救急医療(松山市急患医療センター・松山市医師会休日診療所等)と、入院・手術等が必要な重症患者に対応する小児二次救急医療を整備し、症状に応じた救急医療を確保を行っています。なお、直接生命にかかわる重篤な救急患者を収容・加療する三次救急医療には、県立中央病院救命救急センターが対応します。	<p>1. 小児救急医療支援事業 年間365日の小児二次救急医療確保のため、重症患者に対応できる小児救急医療を実施する病院の協力のもと、小児科対応が困難な救急病院を補充しました。 ・26年度実績 小児救急医療支援病院 診療日数136日 病院群輪番制病院(小児二次救急) 診療日数46日</p> <p>2. 小児救急医等の育成 松山赤十字病院の臨床研修指導医が出務する救急医療センターの深夜帯において、小児科研修医(2年次)の実施研修を実施し、小児科医の育成に努めました。 ・26年度実績 実地研修回数26回</p>	<p>1. 小児救急医療支援事業 年間365日の小児二次救急医療確保のため、重症患者に対応できる小児救急医療を実施する病院の協力のもと、小児科対応が困難な救急病院を補充しました。 ・27年度実績 小児救急医療支援病院 診療日数138日 病院群輪番制病院(小児二次救急) 診療日数46日</p> <p>2. 小児救急医等の育成 松山赤十字病院の臨床研修指導医が出務する救急医療センターの深夜帯において、小児科研修医(2年次)の実施研修を実施し、小児科医の育成に努めました。 ・27年度実績 実地研修回数14回</p>
77	3-4	77 小児救急医療の適正受診に向けた啓発事業	医事業事課	幼稚園や保育所等で、乳幼児を持つ保護者を対象とする「小児救急医療啓発出前講座」を実施し、小児救急医療体制の現状や、救急医療機関の上手な利用方法、自宅で行うことができる応急的な措置について説明等を行い、「救急医療機関の適正な利用の仕方」について啓発を行い意識の向上を図ります。	<p>小児救急医療啓発出前講座の実施 こどもの救急ガイドブックを活用し、保育園や幼稚園や公民館等において小児救急医療の現状や急患センターの適正受診等についての啓発講座を実施しました。 ・26年度実績／実施回数：30回 参加延人数：765人</p>	<p>小児救急医療啓発出前講座の実施 こどもの救急ガイドブックを活用し、保育園や幼稚園や公民館等において小児救急医療の現状や急患センターの適正受診等についての啓発講座を実施しました。 ・27年度実績／実施回数：39回 参加延人数：1,050人</p>
78	3-4	78 消防救急体制の充実	消防局警防課	すべての消防署・支署・出張所の救急車、救急車搭載型消防救急艇等の適正な運用により消防救急体制の充実を図ります。	平成26年中の各救急隊の出場状況は、湯山救急出張所が613件/年(救急隊現場到着平均時間：8分44秒)、久谷救急出張所が589件/年(救急隊現場到着平均時間：7分34秒)、救急車搭載型消防救急艇等が314件/年となっており、山間部や離島など広範囲な地域への消防救急体制が確保されています。	平成27年中の各救急隊の出場状況は、湯山救急出張所が714件/年、久谷救急出張所が637件/年、救急車搭載型消防救急艇等が328件/年となっており、山間部や離島など広範囲な地域への消防救急体制が確保されています。
79	4-1	79 男女共同参画事業	市民参画まちづくり課	企業、NPO、地域など、あらゆる主体が協働しながら、男女が家事や育児・介護に共に取り組み、家族みんなが尊重しあって家庭が築けるよう、公開講座による普及啓発を行うとともに、男性の家事・育児参加を促すイベントを行います。	<p>一般市民の方を対象に、地元で活躍されている方や専門家、有識者による連続講座や講演会を開催しました。家庭・地域・職場等さまざまな活動の場で、男女共同参画の視点を持って行動できる人材を育成する講座や、著名人を招いての公開講座を開催しました。 参加者：延べ407人(男性65人、女性342人)</p>	<p>一般市民の方を対象に、地元で活躍されている方や専門家、有識者による連続講座や講演会を開催しました。家庭・地域・職場等さまざまな活動の場で、男女共同参画の視点を持って行動できる人材を育成する講座や、著名人を招いての公開講座を開催しました。 参加者：延べ231人(男性53人、女性178人)</p>
80	4-1	80 男女共同参画に関するパンフレット配布	市民参画まちづくり課	市民や子どもを対象とした、男女共同参画を普及・促進するための啓発資料を作成し、男女の家事参加や仕事と家庭のバランスなどについて啓発に努めます。	<p>子育てのパパを対象とし、パパの育児参加を啓発する「パパパス」を作成し、コムズや松山市の保健所、市民課、子育て支援課等に広く配布しました。 発行部数：2,000部</p>	<p>男女共同参画推進に関する各種情報の提供やコムズ事業の告知等を行う情報誌「コムズ」を年間2回編集・発行し、男女共同参画の意識の高揚及びイベントの周知を図りました。 発行部数：各7,000部 配布場所：支所、保育園・幼稚園、小・中学校、金融機関等</p>
81	4-1	81 親子ふれあい事業【再掲】	教育支援センター事務所	推進施策【2-3】 通番40参照		
82	4-1	82 親子ふれあいコミュニティ広場事業【再掲】	保育・幼稚園課	推進施策【2-4】 通番52参照		
83	4-1	83 はじめてのパパ・ママのための教室【再掲】	健康づくり推進課	推進施策【3-1】 通番57参照		



推進施策	通番	事業名	担当課	事業の概要及び今後の方針	【参考】平成26年度実施状況	平成27年度実施状況
84	4-1	84	はじめてのママのための教室【再掲】	健康づくり推進課	推進施策【3-1】 通番58参照	
85	4-2	85	学習アシスタント活用支援事業	学校教育課	学習アシスタントを各小中学校が主体的に活用することにより、児童生徒の基礎・基本と確かな学力の定着を図ります。 児童・生徒の基礎学力の充実を図るため、本市独自の事業として学習アシスタント（教員免許保有者、教育実習を終えた大学生）の活用経費を各学校に補助。各学校では、それぞれの経営方針及び実情に応じ、アシスタントを選し、授業等で活用（チームティーチング等）しています。また、平成16年度から実施している本事業等のサポートを行っているボランティアに対する支援も、引き続き実施しました。本事業は平成15年度から開始し、事業目的である基礎・基本の定着だけでなく、教員への刺激もあり、多面的な効果が現れています。個別支援や習熟度別支援を効果的にを行い、学習理解がさらに深まるよう実施していきます。 <H26実績> ・学習アシスタント活用校 : 小学校 52校、中学校 18校 ・学習ボランティア活用校 : 小学校 41校、中学校 6校 ・学習アシスタントのべ人数 : 小学校 142名、中学校 80名	児童・生徒の基礎学力の充実を図るため、本市独自の事業として学習アシスタント（教員免許保有者、教育実習を終えた大学生）の活用経費を各学校に補助。各学校では、それぞれの経営方針及び実情に応じ、アシスタントを選し、授業等で活用（チームティーチング等）しています。また、平成16年度から実施している本事業等のサポートを行っているボランティアに対する支援も、引き続き実施しました。本事業は平成15年度から開始し、事業目的である基礎・基本の定着だけでなく、教員への刺激もあり、多面的な効果が現れています。個別支援や習熟度別支援を効果的にを行い、学習理解がさらに深まるよう実施していきます。 <H27実績> ・学習アシスタント活用校 : 小学校 52校、中学校 18校 ・学習ボランティア活用校 : 小学校 40校、中学校 6校 ・学習アシスタントのべ人数 : 小学校 138名、中学校 67名
86	4-2	86	特色のある学校づくり事業	保育・幼稚園課 学校教育課	幼児・児童・生徒や地域の実態に即して、市立の各幼稚園・学校の創意工夫を生かした教育活動の開発や、外部講師への謝礼、教育環境の充実、学習活動への支援など、地域の学習資源や人材を多方面に渡って有効活用しながら特色ある学校づくりを推進しました。各学校では、補助金を活用して、地域の方を講師として招いて農業、飼育、栽培等の体験活動を行ったり、職場体験学習に必要な通信費や消耗品の購入で活動を充実させたりするなど、学校行事や各教科等の授業を中心に特色ある学校づくりが進みました。また、学力向上や特別支援教育、小学校外国語活動に関する人材活用など、各校の特色を生かした様々な取組が見られ、効果的な学習活動の実践や研究が進みました。 (保育・幼稚園課) 市立幼稚園では、各園の特色を生かした体験活動の充実に加え、地域の未就園児親子も含めた集いの広場や、保護者サークルのサポートなどの子育て支援の充実にも努めました。	(学校教育課) 幼児・児童・生徒や地域の実態に即して、各学校の創意工夫を生かした教育活動の開発や、外部講師への謝礼、教育環境の充実、学習活動への支援など、地域の学習資源や人材を多方面に渡って有効活用しながら特色ある学校づくりを推進しました。各学校では、補助金を活用して、地域の方を講師として招いて栽培体験を行ったり、職場体験学習に必要な通信費や消耗品の購入で活動を充実させたりするなど、特色ある学校づくりが進みました。また、全小中学校で実施されている外国語活動に対して、人材活用にかかる経費を交付し、各校の特色に合わせて活用することで効果的な学習活動の実践や研究が進みました。 (保育・幼稚園課) 市立幼稚園では、各園の特色を生かし、様々な人や自然とのふれあいを大切に体験活動の充実に加え、地域の未就園児親子も含めた集いの広場や、保護者サークルのサポートなどの子育て支援の充実にも努めました。
87	4-2	87	通学区域の弾力的運用	学校教育課	新入学生とその兄弟を対象とした隣接校区選択制により、教育委員会が指定した学校よりも近い隣接校を選択できる機会を与えることで、通学距離、通学の安全性等、現在の校区制による問題点に対応しました。平成17年度から番町・八坂・東雲の3小学校と旧北条市から引き継いだ立岩小学校（平成16年度から）では、全地域から児童を募集する全地域選択制を実施しています。また、これら4校では、それぞれの特色を生かした学校づくり・教育活動を積極的に展開することで、他にはない小規模校のよさを生かした特色ある学校づくりを展開しています。平成20年度から五明小学校でも実施し、平成22年2月からスクールバスの運行を開始しました。なお、外国語活動研究指定校として全地域から児童を受け入れていた清水・椿・北久米小学校につきましては、外国語活動が全小中学校で完全実施されたことに伴い、平成23年度でその受け入れを終了いたしました。 ◇弾力化申請者数（隣接校区選択制・全地域選択制） 26年度／小学校304人、中学校230人 合計562人 25年度／小学校280人、中学校205人 合計485人 24年度／小学校306人、中学校202人 合計508人 ◇全地域選択制申請者数（上記内数・26年度） 番町小学校47人（新1年生と兄弟）、八坂小学校7人（全学年）、東雲小学校1人（新3年～新6年）、立岩小学校1人（全学年）、五明小学校1人（全学年）	新入学生とその兄弟を対象とした隣接校区選択制により、教育委員会が指定した学校よりも近い隣接校を選択できる機会を与えることで、通学距離、通学の安全性等、現在の校区制による問題点に対応しました。平成17年度から番町・八坂・東雲の3小学校と旧北条市から引き継いだ立岩小学校（平成16年度から）では、全地域から児童を募集する全地域選択制を実施しています。また、これら4校では、それぞれの特色を生かした学校づくり・教育活動を積極的に展開することで、他にはない小規模校のよさを生かした特色ある学校づくりを展開しています。平成20年度から五明小学校でも実施し、平成22年2月からスクールバスの運行を開始しました。なお、外国語活動研究指定校として全地域から児童を受け入れていた清水・椿・北久米小学校につきましては、外国語活動が全小中学校で完全実施されたことに伴い、平成23年度でその受け入れを終了いたしました。 ◇弾力化申請者数（隣接校区選択制・全地域選択制） 27年度／小学校257人、中学校188人 合計445人 26年度／小学校304人、中学校230人 合計562人 25年度／小学校280人、中学校205人 合計485人 ◇全地域選択制申請者数（上記内数・27年度） 番町小学校44人（新1年生と兄弟）、八坂小学校4人（全学年）、東雲小学校2人（新4年～新6年）、立岩小学校3人（全学年）、五明小学校1人（全学年）
88	4-2	88	教職員研修事業	教育研修センター 事務所	教職員の資質向上を図るために、地域の特色と学校のニーズを踏まえた中核市研修を実施しています。今後は、教育研究所の機能を拡充した松山市教育センター（H28年度開設予定）を拠点とし、愛媛大学教育学部との連携等による質の高い研修の提供など一層多様なメニューによって教育専門職としての児童生徒を理解する能力や豊かな思考力を高める学習指導力など教職員の資質・指導力向上につながる研修を実施します。 松山市教育の現状と課題を踏まえ、児童生徒一人一人の可能性が最大限に伸長される教育を推進するため、教員の経験年数に応じた研修、現代の教育課題に対応する研修、教科の専門性を高める研修、教員としての知見を広める研修など、体系化した教員研修を実施しました。	児童生徒一人一人の可能性が最大限に伸長される教育を推進するために、①教師の基礎的・基本的な資質能力の確保、②教師自身の個性（得意分野）の伸長、③時代の変化や教育現場の課題に柔軟に、また適切に対応できる力量の育成という3つの視点に基づき、研修を大きく3つの分類に体系化し、研修を実施しました。全部で45研修を実施し、延べ12,284人が研修を受講するなど、教職員研修の機会の確保を図りました。また、45の研修中、8研修において11名の大学教員の協力を得て、より専門的な内容や理論についても学ぶ機会を設けました。 研修の分類 ・基本研修 18研修（教職経験に応じた研修や分担校務に応じた研修） ・専門研修 13研修（今日的な課題に対応する研修や教科の専門性を高めるための研修） ・特別研修 14研修（松山市の独自研修として、人材育成を図る研修）
90	4-2	90	小規模校等学校間交流等支援事業	学校教育課	児童生徒のコミュニケーション能力の向上を目的に、小規模校や島しょ部等の学校の児童生徒が、他校の児童生徒等との交流を図るための移動に必要な経費を補助します。（小中学校11校が実施） (後期まつやま子育てゆめプランに記載なし)	山間部や島しょ部に所在する小規模校の小中学校8校、中学校3校において、他の学校との交流学習や他校との合同での社会科見学等を行い、コミュニティ能力の向上を図ることができました。
96	4-2	96	特別支援教育事業	学校教育課	障がいのある幼児・児童・生徒と障がいのない幼児・児童・生徒と一緒に教育を受けられるように、特別支援教育指導員等が市立の幼稚園や小中学校等に同じ、発達障がい等の幼児・児童・生徒への対応について相談・助言等を行い、障がい等の早期発見・早期支援に努めます。特別な教育的支援を必要とする幼児・児童・生徒に対して、教育相談等を実施し、特性把握や支援の在り方、就学先についての助言等を行います。また、特別支援教育推進協議会の活用や教職員研修の充実を図ります。 ・教育相談会等を実施し、児童生徒の特性把握や支援方法、適切な就学についての助言等に努めました。 ・教職員研修の充実を図り、通常の学級に在籍する発達障がいの児童生徒の理解や支援のあり方についての研修を深めました。 ・特別支援教育推進協議会を設置し、関係機関との連携に努めました。 ・特別支援教育指導員による園や学校現場に向向く相談・助言等の充実を図り、発達障がい等の幼児児童生徒の支援のあり方についての助言を含め、園や学校関係者、保護者への相談の充実を図りました。 ・特別支援学級在籍児童生徒の交流や成果の発表の場として、水泳大会・体育大会・学習発表会の連合行事を実施しました。	・教育相談会等を実施し、児童生徒の特性把握や支援方法、適切な就学についての助言等に努めました。 ・教職員研修の充実を図り、通常の学級に在籍する発達障がいの児童生徒の理解や支援のあり方についての研修を深めました。 ・特別支援教育推進協議会を設置し、関係機関との連携に努めました。 ・特別支援教育指導員による園や学校現場に向向く相談・助言等の充実を図り、発達障がい等の幼児児童生徒の支援のあり方についての助言を含め、園や学校関係者、保護者への相談の充実を図りました。 ・特別支援学級在籍児童生徒の交流や成果の発表の場として、水泳大会・体育大会・学習発表会の連合行事を実施しました。

推進施策	通番	事業名	担当課	事業の概要及び今後の方針	【参考】平成26年度実施状況	平成27年度実施状況
97	4-2	97	障がい等のある子どもの「学校生活支援員」活用支援事業	学校教育課	障がい等のある子どもたちを、障がいに応じて支援することで、一人一人のよりよい教育を保障し、障がいのある子どもと障がいのない子どもが共に豊かな学校生活を過ごせるように、学校生活支援員のさらなる資質の向上と適切な配置に努めます。 (後期まつやま子育てゆめプランに記載なし)	障がい等のある子どもたちを障害に応じて支援し、一人一人のよりよい教育を保障し、豊かな学校生活を過ごせるようにすることを目的とする。 ・学校長の支援方針に基づき、また、子どもの実態に応じた支援を行うため、「学校生活支援員」の活用等は学校に主体性をもたせる。 ・支援員の資質向上のため、教育委員会が研修等を行う。 ・支援種別は、肢体不自由、特別支援学級、難聴、弱視、心臓病・病弱、発達障がい、見守り、外国人・帰国子女等。 [実績等] 配置校 小学校 46校 中学校 23校 合計69校 配置人数 肢体不自由 42人、特別支援学級 78人、難聴 9人、弱視 2人、心臓病・病弱17人、発達障がい 56人、見守り 7人、日本語 17人 合計 228人。
98	4-2	98	いじめ対策総合推進事業（いのちを守る相談事業）	学校教育課	「いじめの問題」について、松山の子どもたちから絶対に犠牲者をださないことを第一の目的とし、よりきめ細かい対応をするために「いのちを守る相談活動」「子どもから広がるいじめ0活動」「いじめ問題対策・サポート事業」「いのちを守り育てる集い」の4事業を積極的に取り組み、いじめの問題の未然防止、早期発見早期解決に努めます。 (後期まつやま子育てゆめプランに記載なし)	松山市では、平成18年度から『いじめ対策総合推進事業』を立ち上げ、いじめの問題に対峙するため、考えられることはすべてやってみようという基本的スタンスのもと、市が独自に主体的な対策を行ってきました。平成27年度も継続して次の4事業を行い、子どもが安心して学校生活をおくれるよう支援しました。 ①いのちを守る相談活動 ②子どもから広がるいじめ0活動 ③いじめ問題対策・サポート事業 ④いのちを守り育てる集い 平成27年4月より、松山市いじめ防止基本方針の運用も始まり、いじめ問題対策連絡協議会やいじめ問題サポートチームを設置するなど、全市をあげていじめの問題の解決に向けて取り組みました。 平成27年度の松山市立小中学校のいじめの認知件数は小学校1392件、中学校546件、合計1938件となっています。
99	4-2	99	生徒指導上の諸問題研究委員会	学校教育課	小中学校の不登校の未然防止を目的として、市内の小中学校ブロック代表の生徒指導主事や関係機関、教育委員会が連携しながら未然防止のための方策を研究し、学校現場で実践することを通じて、不登校の予防に取り組みます。 (後期まつやま子育てゆめプランに記載なし)	不登校の現状や対応を共有し、今後の対策について協議・報告を行った。第2回は小委員会として開催し、小中連携シートの活用を指して、「活用のメリット」や「記入及び活用の約束事項」について話し合い、リーフレットにまとめ各校に配付しました。また、不登校問題への取組の改善を目指して、各校の取組の工夫をアイデア集にまとめ、各校に配付しました。ブロック別研究では、市内小中学校を11のブロックに分け、ブロックごとに設定したテーマについて研究を行いました。教員、保護者等が参加し、講師を招き講義を受けたり、交流活動の実施とその検証を行ったりして、不登校の未然防止に取り組みました。 (実績) 第1回 平成27年5月27日(水) 第2回 (小委員会) 平成27年11月24日(火) 第3回 平成28年2月18日(木) ブロック別研究(各ブロックで実施) 平成27年6月～12月
103	4-3	103	夏休み親子消費者教室	市民相談課	子どもたちから消費者問題に関心を持ってもらい、親子でのコミュニケーションを図る目的で、乳製品を使った料理実習と牛乳パックを再利用した「手すきはがき作り」等を行います。 平成26年7月22日(水) 10:00～14:30 松山市男女共同参画推進センター(コムズ)で開催しました。 ◇学習内容 午前中は乳製品を使った料理実習、午後は牛乳パックから「手すきはがき」づくりをしました。親子で14組29名の参加があり、健康にいい食生活、栄養について学んだあと、午後からは牛乳パックからはがき作りをし、消費者問題に関心が高めつつ、親子でコミュニケーションを図ることが出来ました。	平成27年7月22日(水) 10:00～14:30 松山市男女共同参画推進センター 3階調理室で開催しました。 ◇学習内容 午前中は乳製品を使った料理実習、午後は牛乳パックから「手すきはがき」づくりをしました。親子で14組29名の参加があり、健康な体づくり、リサイクル等を通じて消費者問題に関心が高めつつ、親子でコミュニケーションを図ることが出来ました。
104	4-3	104	P T A 活動推進事業	教育支援センター事務所	松山市小中学校 P T A 連合会や各単位 P T A では、ネット環境の変化に伴う親の関わり方などについての講演会や家庭教育等をテーマにした講座・学習会等を開催し、保護者等の教養や資質の向上を図ります。また、市では情報交換や交流事業等の様々な活動を支援し、P T A 活動の活性化を推進します。 P T A の目的である「子どもの健全育成」推進のため、家庭教育・地域教育力の向上を図り、活動の課題を研究討議するとともに、参加者相互の理解と交流を深めました。 (延べ参加者数) ①親学推進事業：1,004人、②PTA研究大会事業：508人、③坊ちゃん学習事業：17,867人、④ブロック広域事業：4,321人、⑤企画事業：3,854人	P T A の目的である「子どもの健全育成」推進のため、家庭教育・地域教育力の向上を図り、活動の課題を研究討議するとともに、参加者相互の理解と交流を深めました。 (延べ参加者数) ①親学推進事業：898人、②PTA研究大会事業：750人、③坊ちゃん学習事業：18,976人 ④ブロック広域事業：3,097人、⑤企画事業：3,245人
105	4-3	105	親子ふれあい事業【再掲】	教育支援センター事務所	推進施策【2-3】 通番40参照	
106	4-3	106	公民館元気活力支援事業【再掲】	地域学習振興課	推進施策【2-3】 通番41参照	
107	4-3	107	放課後子ども教室運営事業【再掲】	地域学習振興課	推進施策【2-3】 通番43参照	
108	4-3	108	地域子育て支援拠点事業【再掲】	保育・幼稚園課 子育て支援課 子ども総合相談センター事務所	推進施策【2-1】 通番12参照	
109	4-3	109	子育て支援総合コーディネーター事業【再掲】	子ども総合相談センター事務所	推進施策【2-1】 通番21参照	
110	4-3	110	子ども総合相談【再掲】	子ども総合相談センター事務所 教育支援センター事務所	推進施策【2-1】 通番22参照	
111	4-3	111	親子ふれあいコミュニティ広場事業【再掲】	保育・幼稚園課	推進施策【2-4】 通番52参照	
112	4-3	112	男性セミナー	市民参画まちづくり課	中高年の男性を対象とし、介護や健康、生活的自立のための料理教室などをテーマとした連続講座を開催しました。参加者延べ人数:28名 県市連携の一環として、県市両センターによる共催事業を企画、中高年の男女ペアを対象とした講座を共同開催しました。12月14日 県センターにて開催 参加者延べ人数:28名	県市共同開催事業として、50～60代の男性を対象とした「これからの男の生き方セミナー」を開催しました。参加者延べ人数:30人 市民活動支援事業において、「父子料理教室」を企画した団体の支援、助成を行いました。 参加者:23人

推進施策	通番	事業名	担当課	事業の概要及び今後の方針	【参考】平成26年度実施状況	平成27年度実施状況	
113	4-4	113	教育情報ネットワーク事業	教育研修センター事務所	ICTスキルアップ研修会を小中学校の教職員を対象に実施しています。研修会、調査活動に基づく見直し等を継続的に行うとともに、メディアリテラシー（情報を評価・識別する能力）の向上や情報モラル教育の推進を重要な課題とし、小中学校の連携を密にすることで、発達段階に応じた指導が行えるよう啓発します。	学校教育課の指導・支援の下、松山市小学校情報教育研究委員会、松山市中学校情報教育研究委員会による研究活動、各学校の校内研修等を展開しました。その結果、各学校における情報教育の推進、教員の研修、児童生徒への教育ネットワーク利用に関する指導等を充実することができました。 ◇ICTスキルアップ研修会の実施(対象:小中学校教諭・講師) 実施日 8月5日、 受講者 小学校30名、中学校33名 研修内容 ・ICT機器に関する研修 ・情報モラル及びセキュリティに関する研修 ・指導要録サブシステムに関する研修	学校教育課の指導・支援の下、松山市小学校情報教育研究委員会、松山市中学校情報教育研究委員会による研究活動、各学校の校内研修等を展開しました。その結果、各学校における教員の研修、児童生徒への教育ネットワーク利用に関する指導等を充実することができました。 ◇ICTスキルアップ研修会の実施(対象:小中学校教諭・講師等) 実施日 8月5日 受講者 小学校31名、中学校33名 研修内容 ・授業におけるタブレットパソコンの利活用に関する研修 ・情報モラル及びセキュリティに関する研修 ・指導要録の電子化についての実習
114	5-1	114	地域優良賃貸住宅(一般型)	住宅課	子育て世帯に向けた良質な賃貸住宅の整備費用及び家賃を助成することにより、民間事業者主体の良質な賃貸住宅の供給促進を検討します。	地域優良賃貸住宅(一般型)の新規建設に関する問い合わせなどが無かったことから募集を行いませんでした。今後は、需要と供給のバランスを考慮し、募集の必要性を検討していきます。	地域優良賃貸住宅(一般型)の新規建設に関する問い合わせなどが無かったことから募集を行いませんでした。今後は、国の動向等も見ながら、募集の必要性を検討していきます。
115	5-1	115	市営団地の整備	住宅課	市営住宅での子育て世帯等の居住安定確保に向け、安全性確保を最優先し、市営住宅耐震化推進計画に基づき、緊急度の高い団地から事業(耐震診断、実施設計、工事)の実施を図り、災害に強い、安心・安全な居住環境の確保を目指します。	山西団地3棟分(4・5・6棟)、太山寺団地1棟分(41棟)の耐震補強及び外部改修工事を実施しました。恵良団地、小栗団地の耐震補強及び外部改修工事の実実施設計委託を発注しました。	山西団地4棟分(7・8・9・10棟)、恵良団地1棟分の耐震補強及び外部改修工事を実施しました。この工事により、平成27年度末時点での市営住宅管理戸数のうち耐震性のある戸数の割合が81.1%に向上しました。
116	5-2	116	公営住宅建替事業	住宅課	建替時には、子育て世帯等多様な世帯に配慮した良質な住宅を供給し、ユニバーサルデザインの導入や集会所・広場の設置等、居住環境の向上を図ります。	旧持田住宅(松山市南町一丁目837番1)及び旧大正寺住宅(北斎院町32番103)の跡地の売却を行いました。今後の建替事業として、和泉地区建替事業のうち、和泉北団地の建替計画の策定を進めました。	和泉地区建替事業のうち、第一和泉団地(旧和泉北団地)の建替を先行整備することとしており、実施設計に着手しました。設計では、ゆとりのある居住面積の確保やエレベータ設置等による居住機能向上を予定しています。
117	5-3	117	安全歩行空間整備事業	道路建設課	歩道の新設により児童が安心して通学できるよう通学路の整備充実を図るとともに、交差点改良により交通事故を未然に防ぐなど交通安全対策を実施することで、子育て環境の充実を図ります。	(歩道の新設工事を行った路線)松山外環状線、新玉27号線、久米60号線、常竹小川線、河野五明線 (バリアフリー化工事を行った路線)松山環状線(北部・南部)、久枝202号線	(歩道の新設工事を行った路線)新玉27号線、北条辻下難波線 (バリアフリー化工事を行った路線)久枝202号線、中央山越線
118	5-3	118	松山駅周辺整備事業	松山駅周辺整備課	JR松山駅周辺は、JR予讃線により市街地が東西に分断され、交通渋滞や踏切事故の発生など市民生活に多大な支障をきたしていることから、県が事業主体となって実施する鉄道高架事業に併せ、松山駅周辺土地区画整理事業や駅前広場の整備、また路面電車の延伸、関連街路事業を行います。これら事業の完成により、子ども、高齢者、障がい者など、すべての人が公共交通などの相互乗り入れがしやすいユニバーサルデザインに配慮した交通結節点機能を強化するとともに、安全性と利便性を備えた良好な市街地の形成を図ります。	松山駅周辺整備事業についての地元説明会を開催しながら、昨年度に引き続き仮換地指定に基づいて工事実施設計を行うとともに、地権者と建物の移転補償協議や建物調査を実施し、宅地造成工事を行いました。また、JR四国車両基地跡地を活用した新たな拠点施設や地区全体がより魅力を備えた玄関口として一体的に発展するよう検討を行い、松山駅周辺まちづくり審議会から「松山駅周辺地区車両基地跡地利用に関する基本構想案」の報告を受け、パブリックコメントを行いました。路面電車延伸等基本計画策定に向けた基礎調査を実施し、線形等の比較案について検討を行いました。	松山駅周辺整備事業についての地元説明会を開催しながら、昨年度に引き続き松山駅西側の住宅地区で、建物調査や地権者との移転補償交渉、宅地造成工事等に取り組み、松山駅周辺土地区画整理事業の事業費ベースでの進捗率は約26%になりました。また、JR四国車両基地跡地を活用した新たな拠点施設を整備することで、地区全体がより魅力を備えた玄関口として発展することについて「松山駅周辺地区車両基地跡地利用に関する基本構想」を策定し公表しました。このほか、路面電車の延伸等について関係機関との協議を進めました。
120	5-4	120	庁舎のバリアフリー化	管財課	子ども連れでも使いやすい多機能トイレの設置等の庁舎整備を行います。また、窓口業務のある庁舎へのスロープ等の改良・増設を検討し、庁舎の適正な維持管理・改良に努めます。	昨年度の状況を維持しています。今後も庁舎の適正な維持管理・改良に努めます。	昨年度の状況を維持しています。今後も庁舎の適切な維持管理・改良に努めます。
121	5-4	121	都市公園のバリアフリー化	公園緑地課	都市公園入口の段差解消、スロープ設置を検討し、子どもやベビーカー利用者・高齢者・障がい者をはじめ、すべての人が安心して利用できるように努めます。	石手川緑地整備事業の内、檸檬1丁目地区、朝生田4丁目地区、拓川地区で、スロープ・階段において、高齢者・障害者等の円滑な利用に適した構造とし、バリアフリー化を実施しました。	平成26年度で事業が完了しました。
122	5-5	122	児童遊園地・公園整備事業【再掲】	子育て支援課 公園緑地課	推進施策【2-3】 通番37参照		
123	5-5	123	公園内の照明灯など防犯設備整備と適切な管理	公園緑地課	夕方から夜間の公園利用者の利便性、安全性の向上を図ることを目的に園内灯等を設置します。また、死角をなくすよう施設の配置やせん定等の管理にも努め、子どもたちにも「安全・安心な公園」づくりを進めます。	公園内の夜間における公園利用者の利便性、安全性の向上を図ることを目的に、園内灯の設置や管理に努めました。公園内の見通しを良くするために樹木の強刈込み剪定を行い「安全・安心な公園」づくりに努めました。 ○照明設置及び修繕 24箇所 ○強刈込み剪定 112箇所	公園内の夜間における公園利用者の利便性、安全性の向上を図ることを目的に、園内灯の設置や管理に努めました。公園内の見通しを良くするために樹木の強刈込み剪定を行い「安全・安心な公園」づくりに努めました。 ○照明設置及び修繕 24箇所 ○強刈込み剪定 118箇所
124	5-5	124	防犯灯設置助成事業	市民参画まちづくり課	町内会や自治体などが設置・維持管理する防犯灯の新設工事や器具取替工事・管球取替工事に対し、松山市防犯協会を通じて助成を行い、子どもたちが巻き込まれる夜間の事件や事故の未然防止を図ります。	夜間の犯罪・事故を未然に防止するため、町内会や自治会などが、設置・維持管理(電気料金の負担など)することを前提に、新設工事や器具取替工事・管球取替工事について、松山市防犯協会を通じ、必要な助成を行いました。 1. 新規設置 396灯 2. 器具取替 1,302灯 3. 管球取替 3,608件	夜間の犯罪・事故を未然に防止するため、町内会や自治会などが、設置・維持管理(電気料金の負担など)することを前提に、新設工事や器具取替工事・管球取替工事について、松山市防犯協会を通じ、必要な助成を行いました。 1. 新規設置 368灯 2. 器具取替 1,254灯 3. 管球取替 3,228件

推進施策	通番	事業名	担当課	事業の概要及び今後の方針	【参考】平成26年度実施状況	平成27年度実施状況	
125	5-5	125	放置自転車対策の実施による歩行者環境の安全確保	都市・交通計画課	ベビーカーの通行や子どもの手を引いて歩くなどの妨げとならないよう、放置自転車に対する警告・撤去活動、巡回整理員による放置自転車の整理、サイクルガイドによる駐輪場利用案内、商店街行事での無料駐輪券配布などを実施し、放置自転車の排除とともに駐輪場利用の定着に努めます。	市街中心部を中心に、放置自転車に対する警告・撤去活動、巡回整理員による放置自転車の整理、サイクルガイドによる駐輪場利用案内などの駐輪場への誘導を行いました。大街道駐輪場では、土曜夜市や松山まつり開催時に、駐輪場を無料開放し、イベント時の放置自転車解消に取り組みました。	市街中心部を中心に、放置自転車に対する警告・撤去活動、巡回整理員による放置自転車の整理、サイクルガイドによる駐輪場利用案内などの駐輪場への誘導を行いました。大街道駐輪場では、土曜夜市や松山まつり開催時に、駐輪場を無料開放し、イベント時の放置自転車解消に取り組みました。
126	5-5	126	通学路等校区内危険箇所の交通安全対策	学校教育課 保健体育課	「通学路の緊急合同点検」で対策が必要とされた危険箇所改善の進捗管理と実施状況の公表を引き続き行うとともに、通学路に限らず校区内の危険箇所への安全対策の調整を行い、関係機関等と連携し、適時その改善に向けた取り組みを推進します。	(後期まつやま子育てゆめプランに記載なし)	(保健体育課) 学校や保護者、地域の方等から要望のあった危険箇所への安全対策について、道路管理者、警察など関係機関と連携し現地立会を行い、カーブミラーの設置、路面へのドット線など安全対策を行いました。 《緊急合同点検における危険箇所の進捗状況》 ※平成27年度末時点 危険箇所数…304箇所のうち、 ・対策完了箇所数…213箇所 (うち、平成27年度完了箇所数…24箇所) ・対策予定箇所数… 55箇所 ・対策困難箇所数… 36箇所  【学校教育課】 松山市教育委員会で子どもたちが安全、安心に学校に通えるよう、地域・学校・PTA、警察、県、市の道路管理者等で市内の通学路の危険箇所304箇所の緊急合同点検を行い、平成28年3月31日までに213箇所の対策を実施しています。実施済みの危険箇所の対応については学校ごとに市のホームページでお知らせしていますので、ご覧ください。
127	6-1	127	企業への意識啓発	子育て支援課 地域経済課	国や県、雇用関係機関や経済団体と連携しつつ、啓発チラシや各種セミナー、育児に関するポスター掲示等により次世代育成支援対策推進法及び育児・介護休業法等の関係法令の周知を図り、働きながら子育てしやすい労働環境の整備を進めます。	次世代育成支援対策推進法に関する各種セミナー開催案内を啓発チラシやポスターの掲示、また関係機関作成の育児に関するポスター掲示を行うなど、周知を図りました。女性活躍推進会議に参加し、経済団体や民間企業に対し、子育て支援に関する情報提供を行いました。	関係機関作成の次世代育成支援対策推進法及び育児・介護休業法等の関係法令の啓発チラシ設置やポスター掲示を行うなど、周知を図りました。女性活躍推進会議に参加し、経済団体や民間企業に対し、子育て支援に関する情報提供を行いました。
128	6-1	128	能力開発や適応訓練などの人材育成支援	地域経済課	企業又は企業団体が、従業員の資質の向上を図るため、公的団体が実施する研修等を受講する際に、その費用の一部を補助することで人材育成・確保を支援します。平成26年度からは、公的団体以外の法人(市内に本店又は支店を有するものに限る)が市内で実施する研修等を受講する場合にも補助するように対象を拡大しました。	企業又は企業団体が、従業員の資質の向上を図るために研修等を受講する際に、その費用の一部を補助することで人材育成・確保を支援しました。 ◇申請件数 143件 ◇企業数 65件	企業又は企業団体が、従業員のスキルアップを図るために研修等を受講する際に、その費用の一部を補助することで人材育成・確保を支援しました。 ◇申請件数 167件 ◇企業数 52件
129	6-1	129	多様化する就業ニーズに対する支援	地域経済課	関係機関との連携の下、女性や若年者に対して、仕事と家庭の両立及び多様な働き方の実現に向けた職業能力開発や適応訓練などの支援を行うとともに、職場体験セミナーを実施し、円滑に就業に繋がるよう支援を実施します。また、若年求職者の窓口である「ジョブカフェ愛ワーク」(愛媛県若年者就職支援センター)と連携し、職業相談・セミナーをはじめ職業見学や就業体験を含んだ一連の就職支援サービスを提供及び個々のケースに応じたキャリアカウンセラーによるきめ細かな対応を図るなど、若年者の雇用対策・人材育成などに取り組みます。	I) 女性や若年者など、地元人材の職業意識の醸成や職業能力の向上を図るセミナーを開催しました。 ①コールセンター・事務センター体験セミナーの開催 ◆学生対象 開催回数:3回 受講者数:106名 ◆一般対象 開催回数:4回 受講者数:42名 ②パソコンスキルアップ養成セミナーの開催 ◆一般対象 開催回数:3回 受講者数:60名 ③マッチングセミナーの開催 ◆一般対象 開催回数:3回 受講者数:46名  II) ポリテクセンター愛媛、松山高等技術専門学校において実施した職業訓練の受講生に対して奨励金の支給を行いました。 ◆支給認定数:35名	I) 女性や若年者の雇用の促進や職業能力の向上を図るセミナー、研修及び意見交換会などを実施しました。 ①女性が働きやすい企業環境の醸成セミナーや女性求職者に対する再就職支援研修等 ◆参加社数:24社 ◆参加者数:223名 ②若年求職者と中小企業管理職に対する意見交換会等 ◆参加社数:43社 ◆参加人数:44名 ③コールセンター・事務センター体験セミナー (学生対象) ◆開催回数:2回 ◆受講者数:46名 (一般対象) ◆開催回数:2回 ◆受講者数:18名  II) 公共職業訓練(ポリテクセンター愛媛、松山高等技術専門学校)を受講する一定要件を満たした若年者(40歳未満)に対し、訓練期間中に職業訓練奨励金を支給しました。 ◆職業訓練奨励金認定者数:58名
130	6-1	130	男女共同参画事業【再掲】	市民参画まちづくり課	推進施策【4-1】 通番79参照		
131	6-1	131	男女共同参画に関するパンフレット配布【再掲】	市民参画まちづくり課	推進施策【4-1】 通番80参照		
132	6-2	132	児童クラブ運営事業(放課後児童健全育成事業)【再掲】	子育て支援課	推進施策【2-1】 通番13参照		
133	6-2	133	ファミリー・サポート・センター事業(育児)【再掲】	子育て支援課	推進施策【2-1】 通番18参照		
134	6-2	134	男女共同参画事業【再掲】	市民参画まちづくり課	推進施策【4-1】 通番79参照		
135	6-2	135	男女共同参画に関するパンフレット配布【再掲】	市民参画まちづくり課	推進施策【4-1】 通番80参照		

推進施策	通番	事業名	担当課	事業の概要及び今後の方針	【参考】平成26年度実施状況	平成27年度実施状況
136	6-2	136	テレワーク業務創出支援	地域経済課	<p>育児や家族の介護などで就業することが困難な人たちに、仕事と家庭の両立が可能となるテレワーク支援事業を実施します。社会的自立を目指す人々に対する雇用の促進や、在宅で働くことを希望する人への就労を支援します。</p> <p>母（父）子家庭、障がい者、小学生以下の子と同居し生計を一にしている家庭等の「就労困難者及び在宅でしか働くことのできない方」への就労機会の創出を目的に、テレワークによる在宅就労形態を導入する事業所を支援しました。</p> <p>①発注奨励金 就職困難者を対象に含むテレワーク業務の発注額の10%を奨励金として全国の発注企業に支給</p> <p>②就労奨励金 就職困難者を在宅ワーカーとして雇用する事業所に対して、年度末時点の在宅就労者数に応じて奨励金を支給。</p> <p>平成26年度時点で、下記の5つの市内事業所をテレワーク指定事業所として認定しています。。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>■第1号 まるく株式会社 松山市吉藤三丁目4番6号</li> <li>■第2号 合資会社コバルト 松山市天山三丁目14番21号</li> <li>■第3号 株式会社ホームスタッフサービス 松山市平和通五丁目2番地10</li> <li>■第4号 特定非営利活動法人ぶうしすてむ 松山市木屋町三丁目12番7号</li> <li>■第6号 株式会社パソナテック 松山市一番町一丁目15番2号</li> </ul> <p>(※第5号「特定非営利活動法人ころころ」は、平成23年3月31日に事業廃止に伴う指定取り消し。)</p>	<p>母（父）子家庭、障がい者、小学生以下の子と同居し生計を一にしている家庭等の「在宅でしか働くことのできない方（就労困難者）」への就労機会の創出を目的に、テレワークによる在宅就労形態を導入する事業所を支援しました。</p> <p>①発注奨励金 テレワークによる在宅就労形態を導入する事業所にテレワーク業務を発注する全国の事業者に対し、発注額の10%を奨励金として支給。</p> <p>②就労奨励金 就職困難者を在宅ワーカーとして雇用する事業所に対して、年度末時点の在宅就労者数に応じて奨励金を支給。</p> <p>平成27年度時点で、下記の5つの市内事業所をテレワーク指定事業所として認定しています。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>■第1号 まるく株式会社 松山市吉藤三丁目4番6号</li> <li>■第2号 合資会社コバルト 松山市天山三丁目14番21号</li> <li>■第3号 株式会社ホームスタッフサービス 松山市平和通五丁目2番地10</li> <li>■第4号 特定非営利活動法人ぶうしすてむ 松山市御幸二丁目1番16号</li> <li>■第6号 株式会社パソナテック 松山市一番町一丁目15番2号</li> </ul> <p>(※第5号「特定非営利活動法人ころころ」は、平成23年3月31日に事業廃止に伴う指定取り消し。)</p>

推進施策	通番	事業名	担当課	事業の概要及び今後の方針	【参考】平成26年度実施状況	平成27年度実施状況
137	6-2	137	育児休業中の育児支援	子育て支援課	支援者セミナーの開催など、育児休業中の育児を支援する体制を整えます。  (後期まつやま子育てゆめプランに記載なし)	地域子育て支援拠点事業者等を対象に、支援者セミナーを開催し、育児を支援する側のマネジメント能力の向上を図るなど、育児支援体制を整えていきました。  ・日時 平成28年3月4日(金) 14時30分～16時 ・会場 松山市保健所 4階 教育研修室3 ・内容 講演「子育て支援拠点の可能性」 ・講師 NPO法人わははネット 理事長 中橋 恵美子 ・出席者 約40名
147	7-1	147	交通安全母の会を中心とした各種交通安全活動への参画	都市・交通計画課	交通安全教室への参画や、子どもに対する安全指導活動などへの協力をを行い、交通安全の重要性について再認識を図るとともに、「交通安全は家庭から」の意識の醸成を図ります。  春・秋の交通安全パレード、交通安全運動等、交通安全活動に積極的に参加し、交通安全グッズ・啓発用チラシ等の配布を行うと同時に、声掛けを行い、交通安全意識の啓発・高揚を図りました。 ◇平成26年度交通安全母の会連絡協議会活動状況 ○春の交通安全パレード(平成26年4月3日) ○秋の交通安全パレード(平成26年9月19日) ○踏切事故防止キャンペーン(平成26年11月5日) ○各保育所・幼稚園等での啓発活動	春・秋の交通安全パレード、交通安全運動等、交通安全活動に積極的に参加し、交通安全グッズ・啓発用チラシ等の配布を行うと同時に、声掛けを行い、交通安全意識の啓発・高揚を図りました。 ◇平成27年度交通安全母の会連絡協議会活動状況 ○春の交通安全パレード(平成27年5月11日) ○秋の交通安全パレード(平成27年9月17日) ○踏切事故防止キャンペーン(平成27年11月2日) ○各保育所・幼稚園等での啓発活動
148	7-1	148	地区交通指導員による指導・啓発	都市・交通計画課	各地区に交通指導員を配置し、交通安全教室への協力や街頭指導など、地域ぐるみで子ども等の交通弱者を交通事故から守ります。  市が主催する交通安全教室に参加し、園児・児童に交通安全教育を行い、交通安全意識の啓発と高揚を図りました。また、小学校など通学路の点検や、登校時に横断歩道や交差点等で見守り等を行い、児童の交通事故防止に努めました。 ◇平成26年度交通安全教室実施状況 ○保育所・幼稚園 実施回数90回 参加園児数10,778人 ○小学校 歩き方教室(主に新入学児童対象) 実施回数49回 参加児童4,554人 ○小・中学校 自転車教室 実施回数57回 参加児童・生徒数5,353人	市が主催する交通安全教室に参加し、園児・児童に交通安全教育を行い、交通安全意識の啓発と高揚を図りました。また、小学校など通学路の点検や、登校時に横断歩道や交差点等で見守り等を行い、児童の交通事故防止に努めました。 ◇平成27年度交通安全教室実施状況 ○保育所・幼稚園 実施回数87回 参加園児数10,176人 ○小学校 歩き方教室(主に新入学児童対象) 実施回数52回 参加児童4,455人 ○小・中学校 自転車教室 実施回数58回 参加児童・生徒数6,256人
149	7-1	149	交通ルール順守の啓発	都市・交通計画課	交通安全教室、交通安全運動、チラシや市ホームページなどで交通ルール順守を啓発します。特にチャイルドシートの着用の徹底や自転車利用時のヘルメットの着用、安全基準に適合した幼児2人同乗用自転車の利用の呼びかけを行います。  春・秋の交通安全パレード、交通安全運動において、子ども向けの交通ルール遵守に重点を置いた啓発用チラシ等の配布、ホームページや広報紙による啓発を行いました。また、自転車のルールに関するテストと実体験型の教室を組み合わせた、こども自転車免許証事業を実施し、自転車利用が活発になる小学3年生を対象に、自転車の安全利用のための教育機会の充実に努めました。交通安全教室に参加した保護者に対し、チャイルドシート及びシートベルトの有効性と装着について、具体的な事例やデータを紹介し、チャイルドシート及びシートベルトの重要性を認識できるよう指導及び利用促進を図りました。 ◇交通安全教室実施状況 ○保育所・幼稚園 実施回数90回 参加保護者数 233人	春・秋の交通安全パレード、交通安全運動において、子ども向けの交通ルール遵守に重点を置いた啓発用チラシ等の配布、ホームページや広報紙による啓発を行いました。また、自転車のルールに関するテストと実体験型の教室を組み合わせた、こども自転車免許証事業を実施し、自転車利用が活発になる小学3年生を対象に、自転車の安全利用のための教育機会の充実に努めました。 ◇交通安全教室実施状況 ○保育所・幼稚園 実施回数90回 参加保護者数 343人  毎月10日の自転車安全利用の日には、早朝7:30から8:30までの間、大街道や銀天街を中心に通勤・通学者を対象に自転車の押し歩きを呼びかけました。 ○大街道・銀天街 9回 市駅前広場5回
150	7-1	150	児童生徒をまもり育てる日	教育支援センター事務所	P T Aや学校関係者、地域住民等で組織する見守り隊の活動や、警察関係者と連携し登下校を見守るなど、児童生徒の安全確保に取り組みます。  (後期まつやま子育てゆめプランに記載なし)	中予地方局の依頼によって指定された日等において、P T Aや学校関係者、地域住民等で組織する見守り隊の活動や、警察関係者と連携し登下校を見守るなど、児童生徒の安全確保に取り組みました。  年間4回 出動延べ人数約40,000人
151	7-2	151	警察直通の非常通報装置の設置	保育・幼稚園課 学習施設課	市立の教育・保育施設及び小中学校(一部除く)等に警察直通の非常通報装置を設置し、乳児・幼児・児童・生徒の安全確保のため、防犯対策の充実に努め、不審者侵入等の突発的な事件に対処します。  (保育・幼稚園課) 公立保育所(一部除く。)で設置済です。(なお、平成27年度には、公立のすべての保育所及び認定こども園で設置済)  (学習施設課) 小中学校幼稚園(一部除く。)の校長室・職員室に非常通報装置を設置済です。	公立保育所のうち未設置だった中島こども園ともものはなこども園にも設置し、全ての公立保育所及び公立認定こども園への設置が完了しました。
152	7-2	152	防犯カメラの設置	保育・幼稚園課 学習施設課	不審者侵入等を未然に防ぐため、市立の幼稚園・小中学校・保育所(一部除く)に防犯カメラを設置し、子どもたちの安全・安心の確保に努めます。  (後期まつやま子育てゆめプランに記載なし)	平成23年度に市内業者の寄付により島しょ部を除く25園に防犯カメラを設置しました。その後27年度に島しょ部の中島こども園ともものはなこども園にも設置し、すべての公立保育所及び公立認定こども園に防犯カメラの設置が完了しました。 ※もものはなこども園の防犯カメラは、26年度で閉園したふたば保育園のカメラを移設したものです。
153	7-2	153	教職員を対象とした防犯教室の開催	学校教育課	警察官等を講師として緊急時の避難方法や不審者対応について学ぶなど、教職員を対象に防犯教室を開催します。また、その実践訓練として、各学校では避難訓練を行います。  各学校で作成している「非常変災規定(危機管理マニュアル)」等を踏まえ、実態に応じた不審者対応訓練や避難訓練を実施しました。児童生徒に危険を予測し回避する能力を身につけさせるために、児童生徒を対象とした不審者遭遇時の訓練を行ったり、防犯ブザーなどの防犯グッズの使い方や点検などの実施にも努めました。また、教職員を対象とした危機管理研修会等では、専門的な視点から学校の危機管理や不審者対応について学びました。	各学校で作成している「非常変災規定(危機管理マニュアル)」等を踏まえ、実態に応じた不審者対応訓練や避難訓練を実施しました。児童生徒に危険を予測し回避する能力を身につけさせるために、児童生徒を対象とした不審者遭遇時の訓練を行ったり、防犯笛などの防犯グッズの使い方や点検などの実施にも努めました。また、教職員を対象とした危機管理研修会等では、専門的な視点から学校の危機管理について学びました。
154	7-2	154	緊急避難場所「まもるくんの家」のステッカー配布	学校教育課	各小中学校の通学路を中心に商店や事業所、住宅等に避難場所を表示して、緊急時に児童生徒の保護を行うなど、安全の確保に努めました。 現在、本市では約2,600軒の「まもるくんの家」が登録されており、古くなったステッカーの張替えや新規にご協力いただく避難場所にも新たにステッカーを配布しました。  各小中学校の通学路を中心に商店や事業所、住宅等に避難場所を示す表示をして、緊急時に児童生徒の保護を行うなど、安全の確保に努めました。 現在、本市では約2,500軒の「まもるくんの家」が登録されており、古くなったステッカーの張替えや新規にご協力いただく避難場所にも新たにステッカーを配布しました。	各小中学校の通学路を中心に商店や事業所、住宅等に避難場所を示す表示をして、緊急時に児童生徒の保護を行うなど、安全の確保に努めました。 現在、本市では約2,500軒の「まもるくんの家」が登録されており、古くなったステッカーの張替えや新規にご協力いただく避難場所にも新たにステッカーを配布しました。
155	7-2	155	MACネットCS C(子ども安心安全情報配信システム)	教育支援センター事務所	各警察署からの情報提供にもとづき、市内各地域の不審者情報をメールで配信し、情報を共有することで、地域の安全安心な生活につなげます。  (後期まつやま子育てゆめプランに記載なし)	子どもたちの安全を守るための取り組みとして市内で発生した不審者情報を多くの保護者や地域の方々と共有するほか、子育て支援や食育、緊急災害といった様々な分野の情報を配信しました。 ○登録者数47,296件(平成28年4月時点)
156	7-2	156	少年補導事務管理事業	教育支援センター事務所	青少年の喫煙や万引き等の非行防止を図るため、青少年育成支援委員を委嘱し、「愛の一声」運動を展開するとともに、学校や地域、さらに警察等の関係機関・団体と連携を図りながら、環境浄化活動や広報啓発活動を実施することで、心身ともに健全な青少年の育成に取り組めます。  少年非行を未然に防止し、青少年の健全育成を図っていくため、青少年育成支援委員(旧少年補導委員)と連携し、各地域や市内中心部での「愛の一声」運動を展開するとともに、学校をはじめとする関係機関・団体と連携を図り、巡回活動、環境浄化活動、広報啓発活動等を展開しました。 (補導件数、補導従事者及び補導回数) 声かけや指導を行った少年の数5,872人、延べ出動人員6,682人、延べ出動回数1,638回	少年非行を未然に防止し、青少年の健全育成を図っていくため、青少年育成支援委員(旧少年補導委員)と連携し、各地域や市内中心部での「愛の一声」運動を展開するとともに、学校をはじめとする関係機関・団体と連携を図り、巡回活動、環境浄化活動、広報啓発活動等を展開しました。 (補導件数、補導従事者及び補導回数) 声かけや指導を行った少年の数5,306人、延べ出動人員6,002人、延べ出動回数1,520回
157	7-2	157	子どもの安心安全対策事業	生涯学習政策課	子ども安全対策会議及びプロジェクト会議を必要に応じて開催し、子どもの安心安全対策を推進します。  松山市子ども安全対策プロジェクトチーム会議 期日：平成26年7月22日(火) 内容：子ども安全対策取組の経緯について 各課等の安全対策の取組み状況と今後の課題について	松山市子ども安全対策プロジェクトチーム会議 期日：平成27年7月28日(火) 内容：子ども安全対策取組の経緯について 各課等の安全対策の取組み状況と今後の課題について

推進施策	通番	事業名	担当課	事業の概要及び今後の方針	【参考】平成26年度実施状況	平成27年度実施状況	
160	7-3	160	命を守る！防災士養成事業	消防局地域防災課 保育・幼稚園課 学校教育課	災害発生時に専門的な知識を持ち、適切な対応や指示ができる人材を確保するため、市立幼稚園、小中学校の教職員及び市立保育所の保育士が、松山市消防局が実施する「防災士養成事業」に参画し、防災士資格を取得します。（幼稚園及び保育所1人、小中学校2人程度を配置）	（後期まつやま子育てゆめプランに記載なし）	（地域防災課） 平成27年度には、小学校教職員23名、中学校教職員8名、市立保育所職員11名及び児童クラブ職員10名の合計52名が「防災士養成講座」で防災士資格を取得しました。 （保育・幼稚園課） 市立幼稚園5園、公立保育所24園、公立認定こども園2園に、最低1名の防災士の資格を有する職員を配置し、平成27年度には、新たに11名が防災士の資格を取得し、合計35名となっています。有資格者がその他の職員に対して情報共有を行うなど、災害発生時等の対応について園全体でスキルの向上に努めています。
161	7-3	161	応急手当普及員の養成	保健体育課 消防局警防課	学校現場で初期期の救命救急活動が適切に遂行できるよう、松山市消防局と連携し、教職員の応急手当普及員の有資格者の養成講習を計画的に実施します。また、有資格者の全校配置を堅持しつつ、資格更新講習を通じてそのスキル維持にも努めます。	（後期まつやま子育てゆめプランに記載なし）	（保健体育課） 学校現場の教職員が、応急手当に関する正しい知識と技能を修得することで、初期期の救命救急活動が適切に遂行できるよう、応急手当普及員の養成講習および更新講習を行いました。  《受講者数》 ○養成講習：37名 ○更新講習：82名  （警防課） 教職員を対象とする応急手当普及員の養成講習を平成27年度は1回開催し、37名の普及員を養成しました。
163	8-1	163	要保護児童対策事業	子ども総合相談センター事務所	虐待・不登校や問題行動等の要保護児童に適切に対処するために、関係機関等と連携して支援の連続性の確保、総合的な家庭支援、予防的支援の実施に努めます。	虐待、不登校、いじめなどの要保護児童等に対し、効果的かつ迅速に総合的な支援に取り組むとともに、関係機関で構成する「要保護児童対策地域協議会」での実務者会議、個別ケース検討会議において、役割分担をして、児童虐待の発生予防、早期発見、早期対応に努め、適切な支援を行いました。 また、児童虐待防止を強化するため、年間を通してリーフレットの配布、児童虐待防止推進月間の11月には市有公用車へ啓発ステッカーを貼付し、松山城を児童虐待防止のシンボルカラーであるオレンジ色にライトアップし、児童虐待に対する意識啓発に取り組みました。  《児童虐待支援状況》 ○支援実数：497件 （内訳） ○被虐待児の種別 身体的虐待：148件、ネグレクト：192件、心理的虐待：155件、性的虐待：2件 ・新規：204件（身体的虐待：71件、ネグレクト：57件、心理的虐待：74件、性的虐待：2件） ・継続：293件（身体的虐待：77件、ネグレクト：135件、心理的虐待：81件、性的虐待：0件） ○支援方法及び延べ件数 訪問：1,797件、電話：1,915件、面談：558件 合計：4,270件 ○関係機関との連携状況 面談：523回 電話：2,623回 個別ケース検討会議：76回	虐待、不登校、いじめなどの要保護児童等に対し、効果的かつ迅速に総合的な支援に取り組むとともに、関係機関で構成する「要保護児童対策地域協議会」での実務者会議、個別ケース検討会議等で役割分担を行い、児童虐待の発生予防、早期発見、早期対応に努め、適切な支援を行いました。 また、児童虐待防止を強化するため、年間を通してリーフレットの配布、児童虐待防止推進月間の11月には広報テレビやラジオ、市庁舎への横断幕設置等で、児童虐待に対する意識啓発に取り組みました。  《児童虐待支援状況》 ○支援実数：557件 （内訳） ○被虐待児の種別 身体的虐待：160件、ネグレクト：192件、心理的虐待：203件、性的虐待：2件 ・新規：263件（身体的虐待：67件、ネグレクト：65件、心理的虐待：131件、性的虐待：0件） ・継続：294件（身体的虐待：93件、ネグレクト：127件、心理的虐待：72件、性的虐待：2件）  ○支援方法及び延べ件数 訪問：1,731件 電話：1,681件 面談：621件 合計：4,033件  ○個別ケース検討会議 虐待：103回 要保護等：39回 合計：142回
164	8-1	164	養育支援訪問事業 その他要支援児童、要保護児童等の支援に資する事業【再掲】	子ども総合相談センター事務所	推進施策【2-1】 通番15参照		
165	8-1	165	子ども総合相談【再掲】	子ども総合相談センター事務所 教育支援センター事務所	推進施策【2-1】 通番22参照		
166	8-1	166	家庭・子育て相談室【再掲】	子育て支援課	推進施策【2-1】 通番25参照		
167	8-2	167	子育て短期支援事業【再掲】	子育て支援課	推進施策【2-1】 通番14参照		
168	8-2	168	ひとり親家庭等日常生活支援事業	子育て支援課	ひとり親家庭等が疾病等の事由により、一時的に生活援助が必要な場合、その世帯に家庭生活支援員を派遣して援助を行います。  社団法人松山市シルバー人材センターへ委託し実施しましたが、利用が少ない状況であるため、今後も事業の周知啓発により、利用者の拡充に努めます。 利用状況 25年度：7人（14時間） 26年度：6人（12時間）	社団法人松山市シルバー人材センターへ委託し実施しましたが、利用が少ない状況であるため、今後も事業の周知啓発により、利用者の拡充に努めます。 利用状況 25年度：10人（20時間） 26年度：6人（12時間） 27年度：2人（4時間）	
169	8-2	169	ひとり親家庭等自立促進対策事業	子育て支援課	ひとり親家庭等を対象に、就労に際して必要な知識や技能を身に付けるための講習を実施します。また、養育費相談及び弁護士相談を行います。  ○母子家庭及び寡婦自立促進対策事業（就業支援事業） 介護職員初任者研修、／社会福祉法人 松山市母子会に委託 パソコン講座 /一般財団法人 愛媛県母子寡婦福祉連合会に委託 ○母子家庭等自立支援給付金事業 母子家庭等自立支援教育訓練給付金事業 26年度 3名 母子家庭等高等職業訓練促進給付金事業 26年度 52名	○母子家庭及び寡婦自立促進対策事業（就業支援事業） 介護職員初任者研修、／社会福祉法人 松山市母子会に委託 パソコン講座 /一般財団法人 愛媛県母子寡婦福祉連合会に委託 ○母子家庭等自立支援給付金事業 母子家庭等自立支援教育訓練給付金事業 27年度 5名 母子家庭等高等職業訓練促進給付金事業 27年度 27名	
170	8-2	170	母子生活支援施設の整備事業	子育て支援課	市内にある母子生活支援施設「小栗寮」は昭和50年に建築されたもので、老朽化が著しく、耐震補強工事とあわせて、大規模改修工事を行います。  （後期まつやま子育てゆめプランに記載なし）	母子生活支援施設「小栗寮」は、市立保育園と市営住宅が同じ建物に存在する複合施設の中にありますが、市立保育園の廃園が決まったことから、これを機に現小栗寮がある2階部分と保育園がある1階部分を改修工事し、現在の母子生活支援施設最低基準に適合し、また、DV被害者など緊急保護を要する母子世帯の一時保護にも対応できる施設に改修予定です。（市営住宅のある3、4階も併せて改修工事を行う予定です）地質調査や実施設計を平成26年度から2年程かけて行っており、市立保育園の閉園が平成27年度末となっているので、そのタイミング（平成28年度から）で小栗寮の改修工事を行っていきたく考えています。	
171	8-2	171	テレワーク業務創出支援【再掲】	地域経済課	推進施策【6-2】 通番136参照		
172	8-2	172	子育て支援サービス利用料の助成【再掲】	子育て支援課	推進施策【2-1】 通番23参照		

推進施策	通番	事業名	担当課	事業の概要及び今後の方針	【参考】平成26年度実施状況	平成27年度実施状況	
173	8-3	173	障がい児の支援事業	障がい福祉課	<p>補装具の交付・修理、日常生活用具の給付、重度身体障害児(者)住宅整備事業について、当該児の福祉の増進を図ります。</p> <p>◇補装具交付修理事業 身体障害児の失われた身体機能を補完又は代償する用具であり、将来社会人として独立・自活するための素地を助成・助長すること等を目的として給付しました。 実績 166件 (H27.3月末現在)</p> <p>◇日常生活用具の給付 在宅重度心身障がい児の日常生活が円滑に行えるようベッド、入浴補助用具等を支給することにより、福祉の増進に資することを目的として給付しました。 実績 1,196件 (H27.3月末現在)</p> <p>◇重度身体障害者(児)住宅整備事業 在宅の1、2級の身体障害者(児)が日常生活の不便を解消するため、住宅改造をする場合に、その一部を助成することにより、当該障害者(児)の日常生活を容易にし、その行動範囲を広げて自立更生を促進することを目的とし、低所得者世帯に対し実施してしています。 実績 1件 (H27.3月末現在)</p>	<p>◇補装具交付修理事業 身体障害児の失われた身体機能を補完又は代償する用具であり、将来社会人として独立・自活するための素地を助成・助長すること等を目的として給付しました。 実績 184件 (H28.3月末現在)</p> <p>◇日常生活用具の給付 在宅重度心身障がい児の日常生活が円滑に行えるようベッド、入浴補助用具等を支給することにより、福祉の増進に資することを目的として給付しました。 実績 1,145件 (H28.3月末現在)</p> <p>◇重度身体障害者(児)住宅整備事業 在宅の1、2級の身体障害者(児)が日常生活の不便を解消するため、住宅改造をする場合に、その一部を助成することにより、当該障害者(児)の日常生活を容易にし、その行動範囲を広げて自立更生を促進することを目的とし、低所得者世帯に対し実施してしています。 実績 2件 (H28.3月末現在)</p>	
174	8-3	174	居宅介護・移動支援事業	障がい福祉課	<p>在宅の障がい児の自立と社会参加を目的として、家庭にホームヘルパーを派遣し、身体、家事や移動の介護サービスを提供します。今後も利用者のニーズを把握しながら、継続して実施します。</p>	<p>平成27年3月現在、障がい児に対する支給決定は以下のとおりです。 ・居宅介護 115人 ・移動支援 130人</p>	<p>平成28年3月31日現在、障がい児童に対する支給決定は以下の通りとなりました。 ・居宅介護支給決定 人数99人 ・移動支援支給決定 人数125人</p>
175	8-3	175	障がい児等療育等支援事業	障がい福祉課	<p>在宅の障がい児の地域生活を支えていくために、障がい児施設機能を活用し、療育、相談体制の充実を図ります。</p> <p>在宅の重症心身障害児(者)、知的障害児(者)、身体障害児、発達障害児(者)のライフステージに応じた地域生活を支援するために、障害児(者)施設機能を活用して、療育、相談体制の充実を図るとともに、各種福祉サービスの提供の援助、調整を行い、地域在宅障害児(者)及びその家庭の生活を支援しました。市内4法人で実施した事業の内容は、次のとおりとなっています。</p> <p>1. 訪問による療育指導 ア 巡回相談 実施施設に、実施施設の長(以下「施設長」という。)、医師、看護師、理学療法士、作業療法士、指導員、保育士等の職員等(以下「実施施設の職員等」という。)で編成された相談・指導班を設置し、家庭訪問、巡回等の方法により、在宅障害児(者)及びその保護者に対して各種の相談・指導を行いました。 イ 訪問健康診査 医師、看護師、知的障害者福祉司等が、障害の状況、地理的条件、適切な介護者がいないこと等の理由により地域における医療機関において健康診査を受けることが困難なため健康管理が十分に行われていない在宅の重度知的障害者の家庭を訪問し、健康診査を実施したほか、必要に応じて介護等に関する指導・助言を行いました。</p> <p>2. 外来による専門的な療育相談、指導 実施施設の職員等が、外来の方法による各種の相談・指導を行いました。</p> <p>3. 障害児の通う保育所や障害児通園事業等の職員の療育技術の指導 障害児通園事業及び障害児保育を行う保育所等の職員に対し、在宅障害児(者)の療育に関する技術の指導を行いました。 委託先 社会福祉法人 福角会、社会福祉法人 宗友福祉会、社会福祉法人 あゆみ学園、社会福祉法人 松山市社会福祉事業団 「障害児等療育支援事業」として今後も実施します。</p>	<p>在宅の重症心身障害児(者)、知的障害児(者)、身体障害児、発達障害児(者)のライフステージに応じた地域生活を支援するために、障害児(者)施設機能を活用して、療育、相談体制の充実を図るとともに、各種福祉サービスの提供の援助、調整を行い、地域在宅障害児(者)及びその家庭の生活を支援しました。市内4法人で実施した事業の内容は、次のとおりとなっています。</p> <p>1. 訪問による療育指導 ア 巡回相談 実施施設に、実施施設の長(以下「施設長」という。)、医師、看護師、理学療法士、作業療法士、指導員、保育士等の職員等(以下「実施施設の職員等」という。)で編成された相談・指導班を設置し、家庭訪問、巡回等の方法により、在宅障害児(者)及びその保護者に対して各種の相談・指導を行いました。 イ 訪問健康診査 医師、看護師、知的障害者福祉司等が、障害の状況、地理的条件、適切な介護者がいないこと等の理由により地域における医療機関において健康診査を受けることが困難なため健康管理が十分に行われていない在宅の重度知的障害者の家庭を訪問し、健康診査を実施したほか、必要に応じて介護等に関する指導・助言を行いました。</p> <p>2. 外来による専門的な療育相談、指導 実施施設の職員等が、外来の方法による各種の相談・指導を行いました。</p> <p>3. 障害児の通う保育所や障害児通園事業等の職員の療育技術の指導 障害児通園事業及び障害児保育を行う保育所等の職員に対し、在宅障害児(者)の療育に関する技術の指導を行いました。 委託先 社会福祉法人 福角会、社会福祉法人 宗友福祉会、社会福祉法人 あゆみ学園、社会福祉法人 松山市社会福祉事業団 「障害児等療育支援事業」として今後も実施します。</p>	
176	8-3	176	障がい児通所支援事業	障がい福祉課	<p>通所等による養育を希望する障がい児に対して、生活訓練、社会適応訓練、機能回復訓練、外来相談等を行います。</p> <p>在宅の障がい児に対し、通園の場を設け、日常生活における基本的動作の指導、集団生活への適応訓練等により育成を助長する障害児通園(デイサービス)事業を実施しました。 (実施箇所数) 34箇所 (実施施設) ※ ( ) 内は利用定員 親子通園・くれよん(50)、松山市畑寺児童デイサービス事業所(20)、児童デイサービスどんぐり(10)、つくしデイサービス(10)、地域生活支援センター夢ポケット(10)、アユラ児童デイサービス(10)、パーソナルアシスタント青空(10)、マミー学園(10)、フレンドリー(10)、ほのかのおひさま(医療の必要な児童)(10)、ピーターパン(10)、コロロ松山教室(10)、パーソナルアシスタント青空2(10)、児童デイサービスとして(10)アユラ児童デイサービス2(10)、くるみ園(30)、あゆみ学園(30)、ひまわり園(50)、ひだまりクラブ(5)、愛媛県子ども療育センター(15)、済生会なでしこハウス三津(5)、在宅ケアセンターひなたぼっこ(5)、みらい(10)、多機能型事業所てらす(10)、日野学園指定放課後等デイサービス事業所(10)、えるむ(得夢)(10)、ピーターパン2(10)、ひらい放課後等デイサービス(10)、児童デイサービスみどり園(10)、ウィルビィポルト(10)、多機能型事業所フェローLabo(10)、放課後等デイサービスほりえっぐ(10)、ピーターパン3(10)、アユラ児童デイサービス3(10)</p>	<p>在宅の障がい児に対し、療育の場を設け、日常生活における基本的動作の指導、集団生活への適応訓練等により育成を助長する児童通所(児童発達支援、放課後等デイサービス、保育所等訪問支援)事業を実施しました。 (実施箇所数) 児童通所支援 21箇所 放課後等デイサービス 35箇所 (実施施設) ※ ( ) 内は利用定員 【児童通所支援】児童発達支援センターあゆみ学園(30)、指定多機能型事業所くるみ園(30)、松山市児童発達支援センターひまわり園(50)、児童発達支援事業どんぐり(10)、親子通園・くれよん(50)、松山市畑寺児童発達支援事業所(20)、ほのかのおひさま(10)、フレンドリー(10)、ひだまりクラブ(5)、済生会なでしこハウス三津(5)、コロロ松山教室(10)、児童デイサービスとして(10)、児童発達支援&amp;放課後等デイサービスえるむ(得夢)(5)、重定型児童発達支援ひなたぼっこ1(5)重定型児童発達支援ひなたぼっこ2(5)、自立サポートセンター育はぐ(20)、発達支援ルーム愛キッズ(10)、ちゅーりっぷ(10)、親子通園みのり(10)、児童発達支援センター天使園(30)、チャイルドハート松山(10) 【放課後等デイサービス】パーソナルアシスト青空こどもデイ青空(10)、地域生活支援センター夢ポケット(10)、アユラ児童デイサービス(10)、つくしデイサービス(10)、フレンドリー(10)、パーソナルアシスタント青空子どもデイ青空第2(10)、ピーターパンたくせん(10)、済生会なでしこハウス三津(5)、コロロ松山教室(10)、児童デイサービスとして(10)、アユラ児童デイサービス2(10)、放課後等デイサービス事業所みらい(10)、多機能型事業所てらす(10)、日野学園指定放課後等デイサービス事業所(10)、ピーターパンつじまち(10)、ひらい園放課後等デイサービス(10)、児童デイサービスみどり園(10)、多機能型事業所フェローLabo(10)、放課後等デイサービスほりえっぐ(10)、児童発達支援&amp;放課後等デイサービスえるむ(得夢)(5)、ピーターパンいずみ(10)、アユラ児童デイサービス3(10)、重定型放課後等デイひなたぼっこ1(5)、重定型放課後等デイひなたぼっこ2(5)、自立サポートセンター育はぐ(10)、発達支援ルーム愛キッズ(10)ウィルビィポルト(10)、colorful(10)、放課後等デイサービスフェローKIDS(10)、チューリップ(10)、ピーターパンやまにし(10)、ワンステップこどもプラス(10)、まりも(10)、親子通園みのり(10)、チャイルドハート(10)</p>	
177	8-3	177	短期入所・日中一時支援事業	障がい福祉課	<p>心身障がい児を介護している保護者が疾病等の理由により家庭で介護ができない場合等、(緊急に)施設に短期間入所や日中での活動の場を確保することにより、心身障がい児及びその家族の福祉の向上を図ります。</p> <p>平成27年3月現在の状況 ◇受入施設(市内) 短期入所 12箇所 日中一時支援 23箇所 ◇支給決定人数 短期入所 245人 日中一時支援 439人 ※利用期間は、原則として7日以内。障がい児の移送は、保護者が行います。</p>	<p>◇受入施設(市内) 短期入所 12箇所 日中一時支援 24箇所 ◇支給決定者数 短期入所 231人(H28.3月サービス提供) 日中一時支援 344人(H28.3月サービス提供) ※利用期間は、原則として7日以内。障がい児の移送は、保護者が行います。</p>	



推進施策	通番	事業名	担当課	事業の概要及び今後の方針	【参考】平成26年度実施状況	平成27年度実施状況
178	8-3	178	児童発達支援センターひまわり園運営等事業	児童発達支援センターひまわり園運営事業、心身障がい児施設プール開放事業により日常生活動作、運動機能に係る指導訓練等必要な養育を行い、運動機能等の低下を防止するとともに発達を促します。	(事業目的) 障がいのある児童に対し、知覚・認知・運動・言語などの障害の軽減・克服を目指し、成長・発達を可能な限り高めることを目的として、個々の障がいのある児童の障がいの状況や特性に応じて必要な療育を行なうものです。 (事業内容) 1 知的障害の児童が保護者のもとから通って、母子分離の方法で療育を受けるとともに、独立生活に必要な知識技能を身につけることを目的とする児童発達支援センター運営事業。 2 在宅の重症心身障害児を対象に、通園の方法による日常生活動作、運動機能に係る指導訓練等必要な療育を行なうことにより、運動機能等の低下を防止するとともに発達を促す重症心身障害児の通所事業。 3 在宅の心身障害児にひまわり園のプールを一時的に利用させ、水浴の場を通じて療育、訓練等を行う心身障害児施設プール開放事業(市単独)。 (実施施設) 4 増加し続ける障害児(者)のライフステージに応じた地域での生活を支援するため、①在宅支援訪問療育等指導事業 ②在宅支援外来療育等支援事業 ③施設支援一般指導事業の3つが事業内容である「障害児等療育支援事業」。(再掲) 松山市児童発達支援センターひまわり園	(事業目的) 障がいのある児童に対し、知覚・認知・運動・言語などの障害の軽減・克服を目指し、成長・発達を可能な限り高めることを目的として、個々の障がいのある児童の障がいの状況や特性に応じて必要な療育を行なうものです。 (事業内容) 1 知的障害の児童が保護者のもとから通って、母子分離の方法で療育を受けるとともに、独立生活に必要な知識技能を身につけることを目的とする児童発達支援センター運営事業。 2 在宅の重症心身障害児を対象に、通園の方法による日常生活動作、運動機能に係る指導訓練等必要な療育を行なうことにより、運動機能等の低下を防止するとともに発達を促す重症心身障害児の通所事業。 3 在宅の心身障害児にひまわり園のプールを一時的に利用させ、水浴の場を通じて療育、訓練等を行う心身障害児施設プール開放事業(市単独)。 (実施施設) 4 増加し続ける障害児(者)のライフステージに応じた地域での生活を支援するため、①在宅支援訪問療育等指導事業 ②在宅支援外来療育等支援事業 ③施設支援一般指導事業の3つが事業内容である「障害児等療育支援事業」。(再掲) 松山市児童発達支援センターひまわり園 (実績) ・通園利用 年間延べ11,697人 月平均49.8人 ・療育支援登録人数25人 ・プール利用延べ205人
180	8-3	180	児童クラブの障がい児受入れ促進	児童クラブの施設に障がい児用のトイレや出入口のスロープを整備するなど、障がい児が利用しやすい環境整備を進めます。障がい児を受け入れた児童クラブの状況に応じて支援員等を増員します。	障がい児等210人を受け入れ、79人の指導員を加配しました。(平成26年5月1日現在) 平成26年10月2日には、愛媛県立みなら特別支援学校を参観する現地研修を開催しました。	障がい児等262人を受け入れ、95人の支援員を加配しました。(平成27年5月1日現在) 年6回行っている研修の中で、障がい等のある児童に対する研修を行い、支援員の専門知識の向上を図っています(27年度は実績なし)さらに、段差の解消や手すり、スロープ、多目的トイレの設置などハード面の整備も行っていきます。
181	8-3	181	特別支援教育事業	学校教育課	推進施策【4-2】 通番96参照	
182	8-3	182	障がい等のある子どもの「学校生活支援員」活用支援事業【再掲】	学校教育課	推進施策【4-2】 通番97参照	
183	9-1	183	子ども医療助成事業	子育て支援課	○乳幼児医療(0歳から6歳就学前までの子ども) 入院・通院について、保険診療による医療費の自己負担分を助成しました。 《医療費助成状況》 受給対象者 30,489人 助成額 1,197,194円 ○児童医療(小学1年生から小学3年生(9歳年度末)までの子ども、平成23年9月1日から助成を開始) 入院について、保険診療による医療費の自己負担分を助成しました。 《医療費助成状況》 受給対象者 約13,600人 助成額 17,715千円	○乳幼児医療(0歳から6歳就学前までの子ども) 入院・通院について、保険診療による医療費の自己負担分を助成しました。 《医療費助成状況》 受給対象者 30,196人 助成額 1,192,575円 ○児童医療(小学1年生から中学3年生(15歳年度末)までの子ども、平成27年4月1日から助成を開始) 入院について、保険診療による医療費の自己負担分を助成しました。 《医療費助成状況》 受給対象者 約42,300人 助成額 34,365千円
184	9-1	184	ひとり親家庭医療助成事業	子育て支援課	所得税非課税世帯を対象に入院・通院の医療費を県市共同で助成するほか、児童扶養手当の所得制限限度額未満の世帯に対しても市独自に助成し、ひとり親家庭の経済的負担の軽減と生活の安定に寄与します。 《医療費助成状況》 受給対象者 17,245人 助成額 681,968千円	所得税非課税世帯を対象に通院・入院の保険診療による医療費の自己負担分を県市共同で助成し、所得税課税世帯に対しても市単独で助成しました。 平成27年7月1日から所得制限を導入し、父子家庭へも対象を拡大しました。 《医療費助成状況》 受給対象者 15,924人 助成額 668,442千円
185	9-1	185	ひとり親家庭等自立支援給付金	子育て支援課	ひとり親家庭の自立支援を図るため、職業能力開発講座の受講又は看護師、介護福祉士等の資格の取得に係る費用の一部を支給します。 ○母子家庭等自立支援教育訓練費支給事業 母子家庭の母又は父子家庭の父が自主的に行う職業能力の開発を推進するため、雇用保険制度の教育訓練給付指定講座を受講し、その教育訓練を終了した方について、自立支援教育訓練給付金の支給を行いました。 26年度支給件数 介護福祉士実務者研修/1件 介護技術講習/2件 ○母子家庭等高等技能訓練促進費支給事業 介護福祉士、看護師など就職に有利となる資格取得のために、2年以上養成機関での修業を要する場合、その全期間(上限2年)を対象に「高等技能訓練促進費」を支給し、母子家庭等の生活の負担軽減を図りました。 26年度支給人数 看護師(准看護師含)/32名 保育士/2名 作業療法士/2名 介護福祉士/1名 理学療法士/1名 鍼灸師/4名 保健師/1名 栄養士/4名 精神保健福祉士/1名 歯科衛生士/1名 歯科技工士/1名 言語聴覚士/1名 柔道整復師/1名 計52名	ひとり親家庭等自立支援教育訓練費支給事業 母子家庭の母又は父子家庭の父が自主的に行う職業能力の開発を推進するため、雇用保険制度の教育訓練給付指定講座を受講し、その教育訓練を終了した方について、自立支援教育訓練給付金の支給を行いました。 27年度支給件数 介護職員初任者研修/5件 医療事務講座/1件 ○母子家庭等高等技能訓練促進費支給事業 介護福祉士、看護師など就職に有利となる資格取得のために、1年以上養成機関での修業を要する場合、その全期間(上限4年)を対象に「高等技能訓練促進費」を支給し、母子家庭等の生活の負担軽減を図りました。 27年度支給人数 看護師(准看護師含)/19名 保育士/1名 介護福祉士/2名 鍼灸師/1名 保健師/1名 栄養士/2名 歯科技工士/1名 言語聴覚士/1名 美容師/1名 計29名
186	9-1	186	母子父子寡婦福祉資金の貸付	子育て支援課	ひとり親家庭等に対して、その経済的自立の助成と生活意欲の助長を図り、その扶養している児童の福祉を増進するため、各種資金の貸付けを行います。 母子及び寡婦の生活の安定と向上のため、事業開始、修学、技能修得等に必要13種類の資金を貸し付け、自立の促進を図っています。 【貸付状況】 修学資金/255件 技能修得資金/25件 修業資金/12件 生活資金/7件 転宅資金/2件 就学支度資金/78件 合計379件	母子及び寡婦の生活の安定と向上のため、事業開始、修学、技能修得等に必要13種類の資金を貸し付け、自立の促進を図っています。 【貸付状況】 修学資金/195件 技能修得資金/22件 修業資金/18件 生活資金/17件 転宅資金/9件 就学支度資金/108件 合計372件
187	9-1	187	児童手当支給事業	子育て支援課	家庭等の生活の安定を寄与するとともに、次代の社会を担う児童の健やかな育ちを応援するため、昨年度に引き続き児童手当を支給しました。 【児童一人あたりの支給月額】 ・0~3歳未満 15,000円 ・3歳~小学校修了まで ⇒第1子、第2子 10,000円 ⇒第3子以降 15,000円 ・中学生 10,000円 ・所得制限限度額以上 5,000円(平成24年6月から適用) 【平成26年度実績】 ・支給対象児童延人数 770,279人 ・総支給額 8,428,255千円	家庭等の生活の安定を寄与するとともに、次代の社会を担う児童の健やかな育ちを応援するため、昨年度に引き続き児童手当を支給しました。 【児童一人あたりの支給月額】 ・0~3歳未満 15,000円 ・3歳~小学校修了まで ⇒第1子、第2子 10,000円 ⇒第3子以降 15,000円 ・中学生 10,000円 ・所得制限限度額以上 5,000円(平成24年6月から適用) 【平成26年度実績】 ・支給対象児童延人数 764,983人 ・総支給額 8,355,170千円

推進施策	通番	事業名	担当課	事業の概要及び今後の方針	【参考】平成26年度実施状況	平成27年度実施状況	
188	9-1	188	児童扶養手当支給事業	子育て支援課	ひとり親家庭等の生活の安定と自立を促進し、児童の福祉の増進を図るため、児童扶養手当法に基づき手当を支給します。	離婚・死亡・遺棄などの理由で父親または母親と生計を同じくしていないひとり親家庭の生活の安定と自立を促すため、児童扶養手当を支給することにより、児童の福祉の増進を図ることを目的としています。 平成22年8月分から父子家庭も手当の対象となりました。 【手当月額】1人目42,000～9,910円（H27.4以降）、2人目5,000円加算、3人目以降1人増すごとに3,000円加算 【26年度8月末現在実績】 児童扶養手当受給資格者 6,432人 うち手当全部支給者 3,707人 うち手当一部支給者 2,350人 うち手当支給停止者 375人	離婚・死亡・遺棄などの理由で父親または母親と生計を同じくしていないひとり親家庭の生活の安定と自立を促すため、児童扶養手当を支給することにより、児童の福祉の増進を図ることを目的としています。 平成22年8月分から父子家庭も手当の対象となっています。 【手当月額】1人目42,330～9,990円、2人目5,000円加算、3人目以降1人増すごとに3,000円加算（H28.4現在） ※H28.8から第2子以降の加算額倍増（所得に応じ通減措置） 【27年度12月末現在実績】 児童扶養手当受給資格者 6,556人 うち手当全部支給者 3,571人 うち手当一部支給者 2,566人 うち手当支給停止者 419人
189	9-1	189	特別児童扶養手当の支給	障がい福祉課	身体又は精神に中度以上の障がいを持つ20歳未満の児童と生計同一で監護している父若しくは母又は父母に代わって養育している者に対し手当を支給します。	広報「まつやま」や「福祉のしおり」を通じ手当を周知しました。また、身体障害者手帳・療育手帳の手続き来庁時に手当を説明し、該当時には申請受付を行いました。 ◆受給者 1,041人（H26.12月末現在）	広報「まつやま」や「福祉のしおり」を通じ手当を周知しました。また、身体障害者手帳・療育手帳の手続き来庁時に手当を説明し、該当時には申請受付を行いました。 ◆受給者 1,021人（H27.12月末現在）
190	9-1	190	障害児福祉手当の支給	障がい福祉課	身体障がいや知的障がい有するため、日常生活で常時の介護を必要とする20歳未満の児童に対し障害児福祉手当を支給します。	広報「まつやま」や「福祉のしおり」を通じ手当を周知しました。また、身体障害者手帳・療育手帳の手続き来庁時に手当を説明し、該当時には申請受付を行いました。 ◆受給者 340人（H27.3月末現在）	広報「まつやま」や「福祉のしおり」を通じ手当を周知しました。また、身体障害者手帳・療育手帳の手続き来庁時に手当を説明し、該当時には申請受付を行いました。 ◆受給者 329人（H28.3月末現在）
191	9-1	191	松山市重度心身障害児福祉年金	障がい福祉課	身体障害者手帳（1～3級）又は養育手帳（知能指数50以下）を持つ20歳未満の児童と生計同一で現に監護する者に対し、松山市重度心身障害児福祉年金を支給することで、障がい児家庭の生活の安定と福祉の増進を図ります。	広報「まつやま」や「福祉のしおり」を通じ手当を周知しました。また、身体障害者手帳・療育手帳の手続き来庁時に手当を説明し、該当時には申請受付を行いました。 ◆受給者 728人（H27.3月末現在）	広報「まつやま」や「福祉のしおり」を通じ手当を周知しました。また、身体障害者手帳・療育手帳の手続き来庁時に手当を説明し、該当時には申請受付を行いました。 ◆受給者 749人（H28.3月末現在）
192	9-1	192	重度心身障害者医療費助成事業	障がい福祉課	身体障害者手帳1・2級、養育手帳A又は養育手帳B（中度）と身体障害者手帳両方の所有者に対し、医療費の助成を行うことで重度心身障害者の健康管理の向上に寄与し、生活の安定と福祉の増進を図ります。	広報「まつやま」や「福祉のしおり」を通じ医療費助成制度を周知しました。また、身体障害者手帳及び療育手帳の新規申請や程度変更により、受給資格の対象となった者に対し、遅延なく制度の適用を受けられるよう申請を促しました。 ◆受給者 10,728人（H27.3月末現在）	広報「まつやま」や「福祉のしおり」を通じ医療費助成制度を周知しました。また、身体障害者手帳及び療育手帳の新規申請や程度変更により、受給資格の対象となった者に対し、遅延なく制度の適用を受けられるよう申請を促しました。 ◆受給者 10,798人（H28.3月末現在）
193	9-1	193	就学援助費支給事業	学校教育課 保健体育課	経済的利用によって就学困難な児童生徒について就学に必要な費用を援助し、小・中学校での義務教育の円滑な実施に努めます。就学に必要な援助として、学校給食費、学用品通学用品校外活動費、新入学児童生徒学用品費、修学旅行費、少年自然の家費などを支給します。	平成26年度においては、学用品費、通学用品費、校外活動費（宿泊を伴わないもの）、通学費、修学旅行費、新入学児童生徒学用品費等を扶助しました。 ○ 準要保護児童生徒数 小学校 3,572人（13.25%） 中学校 2,136人（16.97%） 合計 5,708人（14.43%）	平成27年度においては、学用品費、通学用品費、校外活動費（宿泊を伴わないもの）、通学費、修学旅行費、新入学児童生徒学用品費等を扶助しました。 ○ 準要保護児童生徒数 小学校 3,591人（13.38%） 中学校 2,236人（17.90%） 合計 5,827人（14.81%）
194	9-1	194	子育て支援サービス利用料の助成【再掲】	子育て支援課	推進施策【2-1】 通番23参照		